

SFC CNSガイド

2006年度 冊子版

慶應義塾大学

湘南藤沢インフォメーションテクノロジーセンター

巻頭言

本書は、SFC-CNS を利用しようとする人のために書かれています。SFC において学ぶ学生、そこで教育や研究をする教員、大学の活動を支える職員、その他 SFC のさまざまな活動に関係している人たちが、SFC-CNS を有効に利用しようとするときに参考になることを意図しています。

SFC は 1990 年 4 月の開設以来、今年で 17 年目を迎えました。SFC-CNS は本格的な教育研究支援システムを目指して設計、構築され、毎年の更新により常に進化してきました。SFC-CNS では、継続的に機器の更新を行っており、現在、モバイル環境支援、教室のデジタル化、マルチメディア・システムおよび周辺機器導入、マルチメディア・コンテンツ（画像、映像、音声、文書などのメディア・コンテンツ）作成・処理機能支援など、21 世紀のデジタルキャンパスとしてふさわしいキャンパスネットワークシステムを構築することを目標として環境の強化に努めています。

本書は、SFC 開設時から学生諸君を中心とする CNS ガイド編集委員によって作成されてきましたが、SFC-CNS の発展と進化にあわせて、分量、形式ともに変化しています。今年度は、いつも持ち歩いて読めるように主要部分をパンフレット形式として配布し、詳細を記述した部分は WEB 上で閲覧できるように連携をもたせて構成してあります。パンフレット形式の部分には最重要事項が記述されており、また、WEB 上のものには詳細が記述されていますので、それらを併用して、有効に利用してください。

SFC-CNS は、UNIX、Windows、その他多種多様の計算機が利用できる分散コンピューティング環境です。数多くの種類の計算機に触れ、利用することは、情報技術を身につけ理解する上で、重要なことですので、特に学生のみなさんには、この環境を有効活用してほしいと思います。

ここで、SFC-CNS を利用するすべての方々をお願いしたいことがあります。それは、次に示すような情報社会の倫理をしっかりと身につけて守って欲しいということです。

- ソフトウェアの著作権等の知的所有権を尊重して、ソフトウェアの違法コピーは決してしないこと。また他人のファイルは尊重し、許可なく覗かないこと。
- SFC-CNS は教育、研究のためのシステムであることを理解し、それ以外の目的には使用しないこと。
- SFC 以外の組織のコンピュータに事前の許可なくリモートログインしようとは決してしないこと。
- SFC および SFC 以外の組織の掲示板等に落書きなどのいたずらは決してしないこと。
- 電子メールは読む相手がいることを意識し、中傷メールなどは決して送らないこと。また、チェーンメールなどは決して送らないこと。
- ホームページの内容は、世界中の誰でも読むことができることを認識し、内容を作成すること。作成に関して画像ファイルの違法コピーなど、他人の権利を決して侵害しないこと。
- その他、他人に迷惑のかかることは決してしないこと。

iv 巻頭言

何か不安に思ったり、分からないことがある場合は、事前にメディアセンターの各コンサルタントおよび ITC に相談してください。

また、SFC-CNS はオープンなシステムを目指しており、管理や利用制限はなるべく行わず、自由にシステムを利用し、SFC において教育・研究が行えるようにしています。そのため、SFC-CNS は利用する人々によってが共有されていることを認識し、秩序ある利用を心掛けてください。

本書の製作にあたっては、インフォメーションテクノロジーセンターに編集委員会を設け、内容の決定、執筆依頼、編集、内容のチェックなどを行ってきました。編集委員は、主として SFC-CNS の利用者である教職員と学生で組織していますが、学生諸君が大きな役割を果たしています。また、現在までに発行された版への意見や SFC-CNS に対する質問などを努めて反映しています。本書は、SFC における新しいコンピュータリテラシーやメディアリテラシーを身につけるための最も実践的な解説書としても位置付けられます。

今年度版の製作にあたり、資料の整理や内容のチェックなどさまざまな手伝いをして頂いた CNS コンサルタントの皆さんに深く感謝致します。また、今までの SFC CNS ガイドに関わってきた多くの皆様に感謝する次第です。最後に、この SFC CNS ガイドが、SFC-CNS で提供されている分散コンピューティング環境の今後の発展に寄与することを期待しています。

2006 年 3 月

湘南藤沢 ITC 所長

楠本 博之

SFC CNS ガイド編集委員

粟村 大輝 坂田 慎一郎 佐藤 奈月 津田 恵理子

中村 翔吾 前田 高志 柊 彩音 松原 弘典

御手洗 紘子 六田 佳祐

インフォメーションテクノロジーセンター

今野 美英 佐藤 純子 藤井 清 山根 健

重近 範行 清水 智公 直江 健介

目 次

目次	v
第 I 部 ようこそ CNS へ	1
1 CNS の利用について	3
1.1 CNS 利用に関する注意	3
1.2 サービスの概要	3
1.3 施設案内	4
1.4 機器貸出	5
2 サポート体制	9
2.1 ITC	9
2.2 学生によるサポート組織	9
3 アカウント	12
3.1 ログイン名とパスワード	12
3.2 ログイン・ログアウト	15
4 印刷	19
4.1 設置されているプリンタ	19
4.2 印刷料金について	20
4.3 プリンタの利用通知	20
4.4 年間印刷枚数の確認	21
5 データ保存方法	22
5.1 ホームディレクトリ	22
5.2 メディアサーバ	24
5.3 共用作業領域	24
5.4 外部記憶メディア	25
6 ネットワーク環境に関する注意	26
6.1 セキュリティホール	26
6.2 コンピュータウィルス	26
6.3 スパイウェア	28
6.4 スпамメール	29
7 コンテンツの作成と利用	31
7.1 コンテンツ利用の原則	31
7.2 Web サイトやレポートなどの作成	31
7.3 P2P ファイル交換ソフトウェア利用上の注意	32

vi 目次

8 講義に関連した CNS 上のサービス	34
8.1 レポートシステム	34
8.2 その他の講義関連システム	36
 第 II 部 ノート PC の初期設定	 37
1 CNS への接続	39
1.1 有線接続	39
1.2 無線接続	39
1.3 キャンパス外からの接続	40
2 リモートホストへの接続	42
2.1 CNS のサーバ	42
2.2 Windows でのリモートログイン	42
2.3 Mac OS でのリモートログイン	44
3 ファイル転送	46
3.1 Windows でのファイル転送	46
3.2 Mac OS でのファイル転送	49
4 電子メールを利用するための初期設定	51
4.1 Windows での電子メールの利用	51
4.2 Mac OS での電子メールの利用	54
5 CNS 上のプリンタへの印刷	56
5.1 Windows での印刷	56
5.2 Mac OS での印刷	59
6 セキュリティホール対策	61
6.1 Windows Update	61
6.2 Apple Security Update	63
 SFC-CNS 利用内規	 67
貸出ノート PC ソフトウェア一覧	68
CNS 関係組織連絡先	69
SFC CNS ガイドの著作権・著作権について	71
??	

第I部

ようこそCNSへ

1 CNS の利用について

この章について

SFC-CNS または CNS とは湘南藤沢キャンパス-キャンパスネットワークシステムの略称です。コンピュータ同士を接続し、互いに情報を交換できる環境を‘ネットワーク’といいます。CNS の大きな特徴はコンピュータの台数や、その性能、機器の種類の多様さもさることながら、そのネットワークの規模にあります。大きなネットワークを利用することは多人数で環境を共有しているということです。そのため、よりいっそうセキュリティなどを配慮した利用を心がける必要があります。ここでは CNS のサービスの概要と、それを利用する際の注意事項について説明します。

1.1 CNS 利用に関する注意

CNS は学生や教職員、研究員で共有して使用しているため、ユーザにはマナーが求められます。次に基本的な事柄を記します。

- コンピュータを利用しながら飲食をしない
- 施設利用のマナーを守る
- コンピュータを占有しない
- 知的財産権を侵害しない

コンピュータを利用しながらの飲食は厳禁です。これはコンピュータは精密機器であるため、ほこりや水に弱く、食べ物のかすや飲み物が故障の原因となるからです。新オープンエリアと特別教室だけではなく、メディアセンターのコンピュータが設置されている場所も飲食は禁止されています。

施設利用のマナーは守ってください。メディアセンターでコンピュータを利用しながら大声で話をするようなことは勉強している多くの学生にとって迷惑になるので慎んでください。またコンピュータの数には限りがあります。他のユーザの迷惑になるので、ログインしたまま長時間に渡って席を離れないようにしてください。

知的財産権を侵害してはいけません。P2P ファイル共有ソフトウェアなどを利用しての楽曲の無断公開や、アプリケーションを不正にコピーすることは、それらの作者が持つ知的財産権を侵害することになります。侵害した場合、‘SFC-CNS 利用内規 (p.67)’ に基づき CNS の利用が取り消され、CNS にコンピュータを接続できなくなります。また学則に基づいた処分も行われます。

学術目的に P2P ファイル交換ソフトウェアを使用する場合は、事前に ITC(p.9) へ利用申請書を提出してください。

1.2 サービスの概要

CNS で利用できるおもなサービスを次に示します。

- 機器の利用
- CNS への個人所有 PC の接続
- サイトライセンスソフトの利用
- 電子メール
- 個人の Web サイトの公開

特別教室やメディアセンターなどに設置されたコンピュータを利用できます。これらのコンピュータにはワープロソフトや表計算ソフトはもちろん、コンピュータによっては映像編集や音楽制作のためのソフトウェアや機材も用意されています。これらのコンピュータからは設置されたプリンタを利用して、モノクロまたはカラー印刷ができます。またリモートログインできる UNIX サーバも用意されています。

ノート PC や自宅のコンピュータなど、個人所有 PC をキャンパス内からもキャンパス外からも CNS に接続できます。接続の方法は多数用意されており、所有するコンピュータや接続する場所の環境に合わせて選択できます。CNS に接続する具体的な方法は「CNS への接続 (p.39)」を参照してください。

CNS ではユーザにメールアドレスを発行し、電子メールのサービスを行っています。ユーザは `t00000tf@sfc.keio.ac.jp` のように、ログイン名の後ろに `@sfc.keio.ac.jp` をつけたメールアドレスを用います。電子メールは IMAP を利用して CNS に設置されたコンピュータや個人所有 PC から利用できます。電子メールの具体的な利用方法は「電子メールを利用するための初期設定 (p.51)」を参照してください。

CNS のユーザは個人で Web サイトを公開できます。CNS で公開された Web サイトは、`http://web.sfc.keio.ac.jp/~t00000tf/` のように、`http://web.sfc.keio.ac.jp/~(ログイン名)/` ではじまる URL をもちます。Web サイトの公開の具体的な方法は Web を参照してください。なお、Web サイトの作成は「コンテンツの作成と利用 (p.31)」を参考にし、著作権などのルールやマナーを十分理解したうえで行ってください。

1.3 施設案内

原則として学生は CNS を 24 時間 365 日利用できますが、CNS のコンピュータが設置されている学内の施設には、利用時間が定められているものがあります。また、これらの施設に入館・入室するには学生証が必要です。所持していない場合、学生であっても施設を利用できませんので必ず携帯してください。午後 11 時から翌日の午前 8 時の間に施設を利用する場合には、見回りの警備員が配布する夜間残留許可願に記入・提出する必要があります。ここでは、それぞれの施設の利用時間とその設備について説明します。

1.3.1 メディアセンター

平日は 9:15~23:00, 土曜日は 9:15~19:00 に開館しています。日曜および祝祭日は休館です。長期休業などにより開館日・開館時間が変更になる場合は、メディアセンターの Web サイト (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/>) に掲載されます。

表 1.1 メディアセンターで利用可能な機器、サービス

場所	機器, サービス	台数	機器名	備考
オープンエリア	Windows	5	mcsupc??	一時利用用
	Windows	5	mcvspsc??	スキャナ専用
	モノクロプリンタ	2	nps13, nps14	
	カラープリンタ	2	color5, color6	
	Windows	10	ispc???	映像編集用
	Mac OS	9	mcmac??	音楽制作用
ワークステーションルーム	Windows	31	ispc??	映像編集用

メディアセンター内には多数の AV 機器が設置されています。AV 機器の利用に関しては‘AV コンサルタント (p.10)’と‘AV 機器貸出 (p.8)’を参照してください。

1.3.2 新オープンエリア

メディアセンターの北側にある新オープンエリアは、原則的に 1 日 24 時間利用できます。コンピュータは設置されていません。ノート PC を接続するための情報コンセントが 30 口あり、他にモノクロプリンタ (nps12) が 1 台あります。長期休業や諸事情で開室日・開室時間が変更になる場合は、メディアセンターの Web ページ (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/>) に掲載されます。

表 1.2 新オープンエリアで利用可能な機器、サービス

場所	機器, サービス	台数	ホスト名・プリンタ	備考
新オープンエリア	情報コンセント	30 口		ノート PC 用
	モノクロプリンタ	1 台	nps12	

1.3.3 特別教室 ($\kappa 18$, $\epsilon 17$, $\iota 18$, $o 17$, $\lambda 11$, $\lambda 18$, $\lambda 21$)

原則的に 1 日 24 時間利用できますが、授業で利用している時間帯は利用できません。また、夏季一斉休業中と年末年始の指定された期間は全ての特別教室が利用できなくなります。

$\kappa 18$, $\epsilon 17$, $\iota 18$, $o 17$ のコンピュータは Windows と UNIX の両方が利用できます。それぞれの施設にある機器の設置場所については巻頭の教室配置図を参照してください。

6 第 I 部 1 CNS の利用について

表 1.3 特別教室で利用可能な機器, サービス

場所	利用可能な機器, サービス	台数	ホスト名・プリンタ名
κ18	UNIX	40 台	zux000~zux039
	Windows	40 台	zxp000~zxp039
	モノクロプリンタ	1 台	nps4
ε17	UNIX	40 台	zux040~zux079
	Windows	40 台	zxp040~zux079
	モノクロプリンタ	1 台	nps3
ι18	UNIX	40 台	zux080~zux119
	Windows	40 台	zxp080~zux119
	モノクロプリンタ	1 台	nps2
ο17	UNIX	40 台	zux120~zux159
	Windows	40 台	zxp120~zxp159
	モノクロプリンタ	1 台	nps1
λ11	Windows	41 台	ixp000~ixp040
	モノクロプリンタ	1 台	nps10
	カラープリンタ	1 台	color7
λ18	Windows	40 台	ispc000~ispc039
	モノクロプリンタ	1 台	nps5
λ21	Mac OS	41 台	g4mac00~g4mac40
	カラープリンタ	1 台	color4

1.4 機器貸出

メディアセンター 1 階 CNS コンサルタントブースでは, Windows がインストールされているノート PC, DVD ドライブおよび無線 LAN カードを貸し出しています。貸出機器はキャンパス外への持ち出しはできません。貸し出しと返却の受付は 9:20~22:00 に行っています。

貸出機器を借用する場合は, あらかじめ CNS コンサルタントブースにある借用証に書かれた規約をよく読み, 守ってください。借用時および返却時には学生証 (教職員の場合はキャンパスカード) の提示が必要です。提示がない場合は借用・返却手続きを行えません。また, 借用, 返却ともに利用する本人がブースまで直接出向いてください。代理返却や代理借用はできません。機器貸出についての詳細は CNS コンサルタントの Web サイト (<http://cnscon.sfc.keio.ac.jp/>) を参照してください。

またメディアセンター 1 階 AV コンサルタントブースでは AV 機器を貸し出しています。貸し出しと返却の受け付け時間は平日 9:15~22:30, 土曜日 9:15~18:30 となっています。ノート PC などとは異なり学生は最大 3 泊 4 日, 教職員は 7 泊 8 日借りられます。

1.4.1 ノート PC

Lenovo の ThinkPad T42 を貸し出しています。ノート PC を所有していない場合や、修理に出している際などに使用できます。貸出ノート PC は 1 泊 2 日まで借用できます。基本的な性能を表 1.4 に示します。詳しくは製造元の Web サイト (<http://www-6.ibm.com/jp/pc/thinkpad/>) を参照してください。

表 1.4 貸出ノート PC

CPU	PentiumM 1.60GHz
メモリ	1GB
ハードディスク	40GB
光学ドライブ	DVD-ROM, CD-ROM 読込可能 CD-R, CD-RW 書込可能

授業などで広く利用できるよう、貸出ノート PC には多くのソフトウェアがあらかじめインストールされています。

1.4.2 DVD ドライブ

アイ・オー・データ社の DVRP-iUP2 を貸し出しています。データのバックアップや、課題の提出、光学ドライブが内蔵されていない個人所有 PC にソフトウェアをインストールする際に利用できます。貸出 DVD ドライブは日をまたいでの借用はできません。基本的な性能を表 1.5 に示します。詳しくは製造元の Web サイト (<http://www.iodata.jp/>) を参照してください。

表 1.5 貸出 DVD ドライブ

インターフェイス	USB2.0, USB1.1
書込可能メディア	CD-R, CD-RW, DVD-R, DVD-RW
読込可能メディア	CD-ROM, CD-R, CD-RW, DVD-ROM, DVD-R, DVD-RW

1.4.3 無線 LAN カード

バッファロー社の WLI-PCM-L11 を貸し出しています。無線 LAN が内蔵されていない個人所有 PC を無線 LAN で接続する際に利用できます。日をまたいでの借用はできません。基本的な性能を表 1.6 に示します。詳しくは製造元の Web サイト (<http://buffalo.melcoinc.co.jp/>) を参照してください。

はじめて貸出無線 LAN カードを用いる場合、デバイスドライバのインストールが必要です。デバイスドライバの CD-ROM は貸出無線 LAN カードに付属します。Windows のコンピュータの場合は、カードを挿すと自動的にインストールされます。

8 第 I 部 1 CNS の利用について

表 1.6 貸出無線 LAN カード

インターフェイス	PC カード TypeII
規格	IEEE 802.11b
最高通信速度	11Mbps

1.4.4 AV 機器貸出

メディアセンター 1 階 AV コンサルタントブースでは、AV 機器の貸し出しを行っています。貸し出しと返却の受け付け時間は平日 9:15~22:30、土曜日 9:15~18:30 となっています。

貸し出している主な機器を表 1.7 に示します。これらの機材を使用する際に使用する三脚、マイク、ライト、各種ケーブルなども同時に貸し出しています。また、メディアセンターの AV 機器を利用するために必要なマニュアル・リモコン類も貸し出していますが、これらはメディアセンター館内でのみ利用可能で、持ち出しできません。

館内専用の機材を除き、SFC の学生は最大 3 泊 4 日借用できます (教職員は 7 泊 8 日)。キャンパス外への持ち出しも可能ですが、借用者は責任を持って管理してください。他人への又貸しは認めません。グループでの使用の場合、借用者が返却まで責任をもって管理してください。

AV 機器を借用する場合は、あらかじめ AV コンサルタントブースにある借用証に書かれた規約をよく読み、守ってください。貸し出しおよび返却時には学生証 (教職員の場合はキャンパスカード) の提示が必要です。提示がない場合は貸し出し・返却手続きを行えません。また、借用、返却ともに利用する本人がブースまで直接出向いてください。代理返却や代理借用はできません。

AV 機器貸出についての詳細は AV サービスの Web サイト (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/avhtml/>)、または AV コンサルタントの Web サイト (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/AVconsultant/>) を参照してください。

表 1.7 貸出 AV 機器

DV ビデオカメラ	Sony VX2000
	Sony TRV950
Hi8 ビデオカメラ	Sony TR3000
デジタルスチルカメラ	Camedia C-4040 ZOOM
	Camedia C-4100 ZOOM
DAT デッキ	TCD-D8

2 サポート体制

この章について

CNS 全体の管理や障害の対応, ユーザのサポートなどのために様々な組織が活動しています. 本章ではそれらの活動について説明します.

2.1 ITC

ITC(インフォメーションテクノロジーセンター) は CNS 全体の管理・運営を行っている組織です.

表 2.1 ITC について

場所	メディアセンター 1 階北側 (CNS/ERNS サービス窓口)
電子メール	cns-request@sfc.keio.ac.jp
URL	http://itc.sfc.keio.ac.jp/
内線	52512
外線	0466-49-3423
窓口受付時間	9:15~17:00
	土曜日・日曜日・祝日・慶應義塾の定める休日は休業

メディアセンター 1 階にある CNS/ERNS サービス窓口は, CNS と大学院のネットワークである ERNS の総合サービス窓口です. ITC が運営しており, メーリングリストの登録やパスワードの再設定, サイトライセンスソフトウェアの利用などの各種申請を受け付けています. CNS/ERNS サービス窓口の受け付け時間は表??の通りです.

CNS に関する連絡事項や CNS の技術的な資料を ITC の Web サイト (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/>) に掲載しています. 適宜利用してください. 機器などにトラブルが発生した場合は ITC に連絡してください. また CNS に関する要望も CNS/ERNS サービス窓口か, 電子メールで受け付けています.

2.2 学生によるサポート組織

SFC では学生生活をサポートするため, 学生によるサポート組織が存在します. 何かわからないことがある場合はそれぞれのコンサルタントに相談しましょう.

2.2.1 CNS コンサルタント

CNS や個人所有 PC に関してわからないことがある場合、CNS コンサルタントに相談できます。また、ノート PC などの機器貸出サービスも CNS コンサルタントが行っています。機器貸出サービスについては‘機器貸出 (p.6)’を参照してください。

表 2.2 CNS コンサルタントについて

場所	メディアセンター 1 階 CNS コンサルタントブース
電子メール	cns-consultant@sfc.keio.ac.jp
URL	http://cnscon.sfc.keio.ac.jp/
内線	52519
外線	0466-49-3425
利用可能時間	月～金 9:20～22:30
	土曜日・日曜日・祝日・慶應義塾の定める休日は休業
	長期休業中については上記の URL を参照

2.2.2 AV コンサルタント

メディアセンターでは、DV デッキなどの AV 機器が利用できます。また、ビデオ撮影や音声のレコーディング、編集などの設備を整えた地下スタジオも設けられています。また、メディアセンター 1 階の AV コンサルタントブースでは、それらの機器に関するサポートや、AV 機器の貸し出しを行っています。詳細は AV コンサルタントの Web サイト (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/AVconsultant/>)、またはメディアセンター AV サービスのページ (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/avhtml/>) を参照してください。

2.2.3 DB コンサルタント

メディアセンターでは文献情報、新聞・雑誌、辞書・辞典、統計数値のデータベースから情報を検索できます。DB コンサルタントではそれらのデータベースの有効な利用方法のレクチャー、文献情報や統計データベースの利用サポートを行っています。詳細は DB コンサルタントのページ (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/DBconsultant/>) を参照してください。

2.2.4 看護ファクトタム

看護ファクトタムは看護医療学部のコンピュータ環境やネットワーク、マルチメディアシステムの利用に関して学生のサポートを行っている団体です。コンピュータやプリンタのトラブル、マルチメディアシステムの利用方法などについての質問や相談をメールでも直接カウンターでも受け付けます。カウンターでは月曜日から金曜日まで質問を受け付けていますが、カウンターにいない時間もありますので事前に Web サイト確認してください。

表 2.3 看護ファクトタムについて

場所	看護医療学部メディアセンター内カウンター
電子メール	fact-support@sfc.keio.ac.jp
URL	http://nmcfact.sfc.keio.ac.jp/
内線	55250

2.2.5 PC@SFC

PC@SFC は、主に個人所有 PC のサポートを行っている団体です。各学期のノート PC 共同購入のサポートや講習会などを行っています。また PC@SFC のページでは、セキュリティなどに関する最新情報、各種ソフトウェアの個人所有 PC へのインストール方法などを掲載しています。質問などは電子メールで受け付けています。

表 2.4 PCSFC について

電子メール	pc@sfc.keio.ac.jp
URL	http://pc.sfc.keio.ac.jp/

3 アカウント

この章について

CNS では学生や教職員、卒業生など多くの人がコンピュータを利用します。コンピュータの利用者のことを‘ユーザ’といい、コンピュータを利用できる権利を‘アカウント’といいます。CNS を利用するためのアカウントは‘SFC-CNS 利用内規 (p.67)’に基づいて発行されます。また通信教育課程と外国語学校を除く慶應義塾大学の他キャンパスの学生は、サブアカウントの発行を申請できます。詳しくは ITC の他地区学生向けページ (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/subaccount/>) を参照してください。

3.1 ログイン名とパスワード

“ログイン名”は、各ユーザに対して固有に割り振られる名前で、コンピュータを利用する際に用います。学部生のログイン名は t00000tf のようにあらし、はじめのアルファベットが学部、次の 2 桁の数字が入学年度、その後ろの 3 桁が学籍番号から計算された値、最後のアルファベット 2 文字が氏名のイニシャルとして作られています。ログイン名は転部をしない限り変わりません。教職員と大学院生はすでに存在しているログイン名と重複しない限り、アカウント作成時に好きなログイン名を希望できます。

パスワードは、銀行のキャッシュカードの暗証番号のように、ユーザが本当にそのログイン名の持ち主であるかを確認するために用いられます。そのためパスワードは決して他人に知られてはいけません。CNS では“CNS パスワード”、“IMAP パスワード”という 2 つのパスワードを用います。

3.1.1 パスワードに関する注意

パスワードが他人に知られた場合、不正にログインされ自分のファイルを消去・変更されたりするだけでなく、CNS のシステム全体に対する破壊へとつながる危険性があります。また、悪意のある者がパスワードを盗まれたユーザの持つ権限や責任のもとに不法行為を働く恐れがあります。このような事態は不正使用された本人だけの問題ではなく、慶應義塾への不信感を招くことになりかねませんので注意してください。また、漏洩を防ぐため、パスワードを絶対に書き留めたり、人に教えたりしないでください。

他人がパスワード入力をしている時は覗き見ないのがマナーです。教職員やメディアセンターのコンサルタントなどが CNS のパスワードを尋ねるようなことは絶対にありません。おかしいと思ったときはパスワードをすぐに変更してください。また、他人がその人のアカウントで作業してほしいという理由でパスワードを教えようとしてきた場合でも断わってください。

パスワードは、推測や解析されにくいよう、英小文字、大文字、記号、数字を組み合わせてください。次に示すようなパスワードは他人に簡単に推測されてしまうので用いないでください。

- 自分、家族、恋人、ペット、有名人などの名前
- 誕生日、住所、地名、電話番号
- 辞書に載っている単語をそのまま使っているもの
- aaa など同じ文字を繰り返しているもの
- 英小文字、数字だけを使っているもの

3.1.2 CNS パスワード

CNS パスワードは、コンピュータにログインする時など、CNS のサービスを利用する際に広く使われます。CNS パスワードは次のルールの中でユーザが自由に設定できます。

- 英数字と記号で構成される
- 6 文字以上 8 文字以下で構成される
- はじめの 6 文字に英語のアルファベットを 2 文字以上含む
- はじめの 6 文字に数字もしくは特殊文字を 1 文字以上含む

なるべく長いパスワードが推奨されますが、CNS パスワードは 8 文字より長い部分が切り捨てられてしまうため、8 文字のパスワードが推奨されます。

CNS パスワードの変更

CNS パスワードは、UNIX のコンピュータで変更できます。リモートログインできるサーバにログインするか特別教室の UNIX のコンピュータで、次のように `yppasswd` コマンドで変更してください。新しいパスワードは、確認のため 2 回入力する必要があります。

実行例

```
% yppasswd ↵
yppasswd: Changing password for t00000tf
Enter login(NIS) password: (古いパスワード) ↵
Re-enter new password: (新しいパスワード) ↵
NIS passwd/attributes changed on ns0
% █
```

CNS パスワードの有効期限

CNS パスワードには安全のために 3 か月の有効期限があります。3 か月以上変更しないと無効になり、CNS パスワードを使うサービスが利用できなくなります。無効になる前にこまめに変更する必要があります。

もし無効になってしまった場合は、ITC(p.9) の CNS/ERNS サービス窓口に行き、学生証を提示すると仮のパスワードが発行されます。仮のパスワードでログインしたあとは、速やかにパスワードを変更してください。

3.1.3 IMAP パスワード

IMAP パスワードはIMAPを利用して電子メールを読む際にのみ用います。電子メールについての詳細は、電子メールの部を参照してください。IMAP パスワードは次に示すように `mailsetup` コマンドで設定できます。 `mailsetup` を利用すると、IMAP 環境の設定も同時に行われます。

IMAP パスワードの設定

UNIX のコンピュータにログインし、`mailsetup` コマンドを実行します。利用する言語を問われますので、日本語 (j) か英語 (e) を選択します。次の実行例では日本語を選択しています。

実行例

```
% mailsetup [1]
-----
[Mail environment setup: Language Setting]
-----
Please choose language
j : Japanese (EUC-JP)
e : English
q : Quit
-----
If you can't read Japanese messages described below (by "MOZIBAKE"),
you have to use English mode or set your terminal to EUC-JP mode.
-----
利用する言語を選択して下さい。
j:日本語 (EUC-JP)
e:英語
q:終了
-----
Please type "j", "e" or "q" key and Enter> j [2]
```

CNS パスワードを問われるので入力します。

実行例

```
-----
メール環境設定を行なうため、CNS のメールサーバに ssh ログインしています。
しばらくお待ち下さい。
-----
次の行で、「CNS ログイン用パスワード」の入力を要求される場合があります。
-----
t00000tf@mail.sfc.keio.ac.jp's password: (CNS パスワード) [3]
```

メインメニューが表示されますので、i<ENTER>と入力し、‘IMAP サービス用にメール環境設定を行う’を選択します。

実行例

[メール環境設定: メインメニュー]

コマンド

```

1:      メール転送設定を行う
2:      メール受信用 APOP パスワードを設定/変更する
i:      IMAP サービス用にメール環境設定を行う
q:      終了
コマンドと Enter キーを入力してください> i

```

CNS パスワードを再度入力します。CNS パスワードを正しく入力した場合、IMAP 用パスワードを設定できます。IMAP パスワードは CNS ログインパスワードとは別のものを設定します。

実行例

[IMAP 利用設定]

Step 1: 設定ファイルのチェック中です...

.folders ファイルに IMAP フォルダ用設定を追加しました。

Step 2: メール送受信用 IMAP パスワードを設定します

t000000tf の CNS ログインパスワードを入力: (CNS パスワード)

新しい IMAP パスワードを入力: (IMAP パスワード)

確認のため、もう一度新しい IMAP パスワードを入力:
(IMAP パスワードを再度入力)

次のように表示されれば IMAP パスワードと IMAP 環境の設定は完了します。〈ENTER〉を入力してメインメニューに戻り、さらに q<ENTER〉を入力して mailsetup コマンドを終了してください。

IMAP パスワードの変更に成功しました@ns0.sfc.keio.ac.jp
Enter キーを入力してください。

3.2 ログイン・ログアウト

アカウントを使ってコンピュータの利用を開始することを UNIX と Mac OS では‘ログイン’、Windows では‘ログオン’といいます。同様にコンピュータの利用を終了することを UNIX、Mac OS では‘ログアウト’、Windows では‘ログオフ’といいます。CNS にはさまざまなコンピュータがあり、ログイン、ログアウトの方法もさまざまです。

3.2.1 UNIX のログイン

UNIX を利用できる教室は κ18, ε17, ι18, ο17 です。次に UNIX にログインする手順を示します。

16 第 I 部 3 アカウント

図 3.1 のような UNIX のログイン画面が表示されていることを確認します。特別教室のコンピュータでは、Windows のコンピュータと UNIX のコンピュータでディスプレイを共有しているため Windows のログオン画面が表示されている場合があります。Windows のログオン画面が表示されている場合は、CPU 切替器 (図 3.2) の左側にある 1 のボタンを押すか、<CTRL>を続けて 2 回押して画面を切り替えます。この時、画面の表示に数秒ほど時間がかかることがあります。また画面が暗い場合、マウスを動かすか、キーボードのどれかのキーを押すと省電力モードから復帰します。

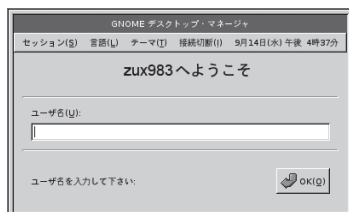


図 3.1 UNIX のログイン画面



図 3.2 CPU 切替器

UNIX ログイン画面が表示されたら、まずログイン名を入力します。入力した後に<ENTER>を押すと、パスワードを入力するよう求められます。パスワードを入力し<ENTER>を押すと、ユーザ名とパスワードの組み合わせの正当性が確かめられます。これをユーザ認証と呼び、認証に成功すると図 3.3 のような画面になり、コンピュータを利用できます。

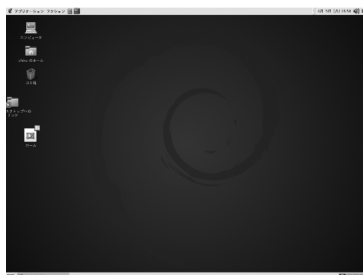


図 3.3 UNIX のデスクトップ

ログイン名やパスワードの入力に間違いがあると認証に失敗するため、ログイン名を入力からやり直します。間違えた場合は<BS>を押すと 1 文字消去、C-u を押すと全文字消去できます。Caps Lock が有効になっていたり、<SHIFT>が押されていると、パスワードが大文字で入力されるので入力前に確認してください。

何度入力し直してもログインできない場合、入力モードが違うかパスワードを覚え間違えている可能性があります。正しいパスワードを思い出せないときは、学生証を持って ITC(p.9) の窓口に行ってください。またマウスやキーボードを操作してもディスプレイが暗いままであれば、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。まったく反応がない場合は、ITC(p.9) もしくは CNS コンサルタント (p.10) に連絡してください。

3.2.2 UNIX コンピュータのログアウト

ログアウトするにはメニューの「アクション」から「ログアウト」を選びます (図 3.4)。次に確認画面が表示されるので、ログアウトボタンを押すとログアウトします。ログアウトに成功した場合には、画面が切り替わりログイン画面 (図 3.1) が表示されます。



図 3.4 GNOME メニュー

3.2.3 Windows のログオン

Windows では、利用を開始することをログインではなくログオンと呼びます。

Windows のログオン画面 (図 3.5) が表示されていることを確認します。特別教室で UNIX のログイン画面が表示されている場合は、CPU 切替器 (図 3.2) の右側の 2 のボタンを押すか、<CTRL> を続けて 2 回押して画面を切り替えます。

ログオン画面 (図 3.5) が表示されたら、'ユーザ名' 欄にログイン名を、'パスワード' 欄に CNS パスワードを入力します。続けて [OK] ボタンを押すとログオンできます。



図 3.5 Windows のログオンウィンドウ

3.2.4 Windows コンピュータのログオフ

Windows では利用を終了することを、ログアウトではなくログオフと呼びます。ログオフするためには画面左下の [スタート] ボタンを押します。表示されるメニューの中から [ログオフ (L)] を選択します。確認を求められる (図 3.6) ので、[ログオフ (L)] ボタンを押すと、ログオフができます。

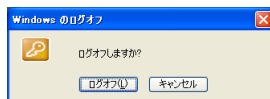


図 3.6 Windows のログオフウィンドウ

3.2.5 Mac OS のログイン

Mac では UNIX 同様、利用を開始することログインと呼びます。ログインするためには、まず Mac OS のログインウィンドウ (図 3.7) が表示されていることを確認します。ディスプレイが暗い場合はマウスを動かすとログインウィンドウが表示されます。

ログインウィンドウの‘名前’欄にログイン名を、‘パスワード’欄に CNS パスワードを入力します。続いて右下の [ログイン] ボタンを押すとログインできます。



図 3.7 ログインウィンドウ

3.2.6 Mac OS のログアウト

ログアウトする前にすべてのアプリケーションを終了させましょう。終了しなくてもログアウトすることはできますが、アプリケーションが利用していたデータが破損する可能性や正しくログアウト時の処理ができない可能性があります。

アプリケーションをすべて終了させた後に、画面左上のアップルメニューを押してメニューリスト (図 3.8) を表示させましょう。メニューから [ログアウト] を選択すると確認画面が表示されます。画面中の [ログアウト] ボタンを押すとログアウトできます。



図 3.8 アップルメニュー

4 印刷

この章について

CNS では、特別教室とメディアセンターに、ユーザが利用できるプリンタを用意しています。モノクロプリンタには nps??, カラープリンタには color? という名前がついています。これらのプリンタは、CNS に設置されているコンピュータから直接利用できます。個人所有 PC から、CNS に設置されているコンピュータか、リモートログインできるサーバを経由して利用できます。ここでは CNS の印刷サービスを概観します。

4.1 設置されているプリンタ

CNS にはモノクロ印刷ができるものとカラー印刷ができるものの 2 種類が設置されています。どちらのプリンタも A4 の片面印刷ができます。カラープリンタは A3 の片面印刷と、A4 および A3 の両面印刷もできます。設置場所は表 4.1、表 4.2 を参照してください。

表 4.1 CNS 上のモノクロプリンタ

プリンタ名	設置場所	プリンタ機種
nps1	o17 特別教室	コニカミノルタ PagePro 9100
nps2	l18 特別教室	
nps3	e17 特別教室	
nps4	k18 特別教室	
nps5	λ18 特別教室	
nps7	e2 階コピー室	
nps8	o2 階コピー室	
nps10	λ11 特別教室	
nps12	新オープンエリア	
nps13	メディアセンター 1F	コニカミノルタ 4032 Print System
nps14	メディアセンター 1F	
nmcp1	看護医療学部 205 教室	コニカミノルタ 2060 Print System
nmcp2	看護医療学部 205 教室	
nmcp3	看護メディアセンター DB 検索用 PC 横	
nmcp4	看護医療学部 202 教室前廊下	
nmcp5	看護医療学部生協横	

表 4.2 CNS 上のカラープリンタ

プリンタ名	設置場所	プリンタ機種
color5	メディアセンター 1F	富士ゼロックス DocuPrint C3540
color6	メディアセンター 1F	
color7	λ11 特別教室	
color8	λ21 特別教室	
color10	看護医療学部 205 教室	
color11	看護医療学部生協横	

プリンタに用紙がない場合は CNS コンサルタントまたは ITC に連絡し、用紙の補充を待ってください。紙詰まりやプリンタの故障の原因となりますので、個人の紙などをむやみに補充しないでください。プリンタの調子がおかしい場合も、自分で対処しようとせず CNS コンサルタントまたは ITC に連絡してください。

4.2 印刷料金について

CNS では、ユーザごとに印刷枚数を記録しています。この記録に基づいて、学年度末に年間の印刷料金が請求されます。印刷料金は表 4.3 を参照してください。カラープリンタで両面印刷した場合は、倍の料金が課金されます。またカラープリンタの使用において、原稿がモノクロであってもミスプリントであっても、1 枚 30 円が課金されるので注意してください。

支払い対象者は年明けに A 館の掲示板にログイン名が張り出されます。該当者は CNS/ERNS 窓口で、ITC 職員の指示にしたがって証紙を購入し、事務室窓口で支払います。また期日までに超過料金を支払わない場合は、アカウントが停止されるので注意してください。

表 4.3 印刷料金一覧

プリンタ		課金
モノクロプリンタ (nps??)		1 枚 5 円 (500 枚まで課金なし)
カラープリンタ (color?)	A4	1 枚片面 15 円
	A3	1 枚片面 30 円

4.3 プリンタの利用通知

CNS のプリンタを使用すると、翌日に利用の通知が CNS のメールアドレス宛に届きます。次に 2006 年 4 月 4 日に、nps13 でモノクロ 13 ページ、color5 で A4 カラーを 1 ページ、color5 で A3 カラーを 2 ページ、出力した場合の例を示します。このメールは 2006 年 4 月 5 日に届きます。

プリンタの出力について不明点があれば、メールが届いてから 1 週間以内に CNS/ERNS サービス窓口へ直接問い合わせてください。

From: CNS-STAFF
Subject: Yesterday's CNS Printer Log

--

藤沢 太郎 様

インフォメーションテクノロジーセンターです。
このメールはプリントシステム管理プログラムにより自動送信されています。

2006-04-04 印刷分の CNS printer 利用状況をお知らせします。

nps13 (13 ページ) color5-A4 (1 ページ) color5-A3 (2 ページ)

年間総合計は、printer-acct コマンドで確認して下さい。

--

4.4 年間印刷枚数の確認

年間での印刷枚数の合計を確認するには、UNIX のコンピュータへログインし、printer-acct コマンドを実行します。印刷枚数は印刷した直後ではなく、翌日午前 0 時頃に再計算されます。この例では 589 枚のモノクロ印刷と 11 枚の A4 カラー印刷、2 枚の A3 カラー印刷をしています。この場合請求金額はモノクロ印刷が $5 \times (589 - 500) = 445$ 円、A4 カラー印刷が $15 \times 11 = 165$ 円、A3 カラー印刷が $30 \times 2 = 60$ 円となり、合計 670 円の利用料金を学年末に支払わなければならないこととなります。

なお前年度の印刷枚数は printer-acct-last コマンドで確認できます。

実行例

```
% printer-acct
昨日までの CNS printer 利用合計 [t000000tf]
-----
白黒 Printer 枚数      nps1      nps3      nps4      nps8      nps12      nps13 [Total]
                        151        113        71        33        104        117 [ 589]

Color - A4 page 数    color8    color6 [Total]
(2005.09.26~)         7         4 [ 11]
Col-A4 以外 page 数    color8 [Total]
(2005.09.26~)         2 [ 2]
% █
```

5 データ保存方法

この章について

CNS には、どのコンピュータからも共通して利用できるデータの記憶領域があります。CNS 上のコンピュータで保存されたデータは、ネットワーク経由で CNS のファイルサーバに保存され、どのコンピュータでも同様にファイルやディレクトリを操作できます。これらのファイルは個人所有 PC から、リモートログインできるサーバを通して参照できます。また CNS では CD-ROM、DVD-ROM や、各種メモリカードリーダーなどの外部記憶装置が用意されています。それらを利用し、個人所有の PC から CNS のデータ記憶領域へデータを転送できます。

5.1 ホームディレクトリ

ホームディレクトリは、ユーザ個人の作業領域です。3GB、200000 ファイルまで情報を記憶できます。CNS の UNIX からは /home/(ログイン名)/、Windows からは Z ドライブ、Mac OS からは HOME フォルダとして利用できます。

初期の設定では、一部の特殊なディレクトリを除き、他のユーザから閲覧できる状態になっています。他人に見られたくないファイルには保護モード (パーミッション) を適切に設定する必要があります。

5.1.1 現在の使用量の確認

ホームディレクトリの使用量を確認するには、UNIX で quota コマンドを使用します。

実行例

```
% quota -v
Disk quotas for t00000tf (uid 29000):
Filesystem usage quota limit timeleft files quota limit timeleft
/a/fs0001a 3289168* 3145728 3328000 6.0days 15848 204800 220160
/a/fs0102a 0 100 100 0 100 100
/a/fs1021a 0 104 104 0 100 100
/a/fs0903a
```

ファイル空間の使用量は KB で表されています。この例では、ファイルの使用制限 (quota) が、3145728KB(約 3GB)、204800 ファイルまでとされているのに対して、実際には、3289168KB (約 3.1GB)、15848 ファイルを使用しています。そのため後 6 日以内にファイル使用量を 3GB 以下に減らすよう警告 (*) が表示されています。

自分のディレクトリを、他のユーザからも書き込みを許可するような保護モードに設定することがあります。自分が他のユーザのディレクトリにファイルを作成する場合、CNS では 100KByte

しかファイル空間を使用できません。その場合、たとえ自分のホームディレクトリ以下が使用量制限に達していなくても、‘disk quota exceeded’ というエラーメッセージが表示されます。

5.1.2 特殊なファイルとディレクトリ

ホームディレクトリの中には、いくつか特殊なディレクトリが存在します。表 5.1 に主要なものを挙げます。たとえば CNS の Windows の ‘マイドキュメント’ に配置したファイルは、XPDataCNS 以下の My Documents に保存されます。

これ以外にも特殊なファイルはあります。これらのファイルやディレクトリの名前は ‘.’ で始まります。そのようなファイルやディレクトリをむやみに削除しないようにしましょう。

表 5.1 特殊なファイルとディレクトリ

名前	説明
.cshrc	UNIX ログインに必要
.login	UNIX ログインに必要
.winman	UNIX 端末へのログインに必要
Maildir	メールを保存するディレクトリ
public_html	個人の Web 公開ディレクトリ
Desktop	UNIX 端末のデスクトップを保存するディレクトリ
XPAppCNS	CNS の Windows で使用するアプリケーションの設定を保存
XPDataCNS	CNS の Windows で使用するデータを保存
CNSMac	g4mac??(λ21 教室 Mac) の設定とデータを保存
CNSMCMac	mcmac??(メディアセンター Mac) の設定とデータを保存

5.1.3 自分の Web サイトを公開する

CNS では、個人の作成した Web サイトを WWW に公開できます。作成したページは CNS の Web サーバを通じて、世界中どこからでもアクセスできます。

公開される対象は、個人のホームディレクトリにある public_html という特殊なディレクトリ以下です。たとえば t00000tf のホームディレクトリ/home/t00000tf/public_html/内に置かれた index.html というファイルは、Web ブラウザで <http://web.sfc.keio.ac.jp/~t00000tf/index.html> からアクセスできます。

Web サイトの公開にあたっては、内容に十分注意を払ってください。Web サイトなどのコンテンツの公開時の注意事項についてはコンテンツの作成と利用 (p.31) を参照してください。

5.2 メディアサーバ

“メディアサーバ”は容量の大きなファイルを一時的に保存するためのファイルサーバで、全体で約 100TB(テラバイト)の記憶領域があります。CNS の UNIX からは/archives/(ログイン名)/, Windows からは Y ドライブ, Mac OS からは ARCHIVE フォルダとして利用できます。メディアサーバはホームディレクトリのようにユーザのディスク容量制限を設定していないので、動画ファイルのようなファイル容量の大きいファイルの一時的な保存に利用します。ただし、使用容量が多いユーザへは注意を促すメールが自動的に送信されます。

メディアサーバの限りある資源を有効に利用するため、メディアサーバに保存されたファイルのうち、30 日間以上アクセスされなかったファイルは自動的に削除されます。1 週間前に削除対象ファイルを有するユーザに電子メールが送信されますので、必要なファイルは削除される前に、別の記憶メディアに移動するなどの措置を行ってください。

メディアサーバは、ホームディレクトリと異なり、ITC はデータのバックアップを行っていません。メディアサーバにファイルを置くのは一時的なものとし、ユーザ個人でのバックアップを心がけましょう。

5.3 共用作業領域

共用作業領域は、公共性の高いファイルを保存する記憶領域です。CNS の UNIX からは/pub/にあたりますが、Windows や Mac OS から直接の参照はできません。

授業などで多くのユーザが同じファイルを使用する場合や、研究室や団体にファイルを共有する場合に利用されます。また、研究室や団体の Web サイトを CNS で公開する場合、/pub/WWW/の下に Web サイト用のディレクトリが作成されます。例えば、情報技術科目の Web サイト (<http://ipl.sfc.keio.ac.jp/>) は/pub/WWW/ipl/に実体があります。

5.4 外部記憶メディア

CNS の Windows コンピュータと Mac OS コンピュータには、CD-ROM や DVD-ROM などのドライブが用意されており、ユーザが用意した記憶メディアを利用できます。次に、コンピュータと利用可能な記憶メディアの対応を示します。

表 5.2 外部記憶メディアが利用できる機器の設置場所

設置場所	利用できる場所
フロッピー	κ18, ε17, ι18, ο17, λ11, λ18, λ21, メディアセンター
CD-ROM	κ18, ε17, ι18, ο17, λ11, λ18, λ21, メディアセンター
CD-R/RW	λ18, λ21, メディアセンター
DVD-ROM	λ18, λ21, メディアセンター
DVD-R	λ18, λ21, メディアセンター
DVD+R	メディアセンター (mcsupc??, mcsvpc??)
DVD±RW	メディアセンター (mcsupc??, mcsvpc??)
DVD-RAM	λ21(3 台のみ), メディアセンター (mcsupc??, mcsvpc??)
各種カード *1	メディアセンター (mcsvpc??)

*1:コンパクトフラッシュ, マイクロドライブ, スマートメディア, メモリースティック, メモリースティック PRO, SD メモリーカード, マルチメディアカード, miniSD カード, メモリースティック Duo, メモリースティック PRO Duo

6 ネットワーク環境に関する注意

この章について

本節ではネットワークを利用する際、自分自身とコンピュータの安全を守るために必要な知識について説明します。ネットワークに接続されたコンピュータの利用には、さまざまなリスクが存在します。それらの中から代表的なものを紹介し、基本的な接し方について解説します。

6.1 セキュリティホール

セキュリティホールとは、Windows、Mac OS、UNIX などの OS やアプリケーションの欠陥のうち、本来できてはいけない操作ができてしまう、見えてはいけない情報が見えてしまうなど、第三者が悪用しうるものをいいます。セキュリティホールが存在したまま放置すると、コンピュータウィルス (p.27) の感染源となったり、攻撃を受けたりすることがあります。セキュリティホールが見つかった場合、通常は OS やアプリケーションの製造元、開発元から、‘パッチ’ とよばれる対策プログラムが公開されます。また、セキュリティホール対策を行った新しいバージョンのアプリケーションが公開されることもあります。

自分の使用している OS やアプリケーションのセキュリティホールに関する情報はこまめにチェックし、パッチの適用や新バージョンのインストールを行い、セキュリティホールのない状態を維持する必要があります。主な OS のセキュリティ情報の Web サイトを表 6.1 に示します。

表 6.1 OS のセキュリティ情報が掲載される Web サイト

OS	URL
Windows	http://www.microsoft.com/japan/security/
Mac OS	http://www.apple.com/jp/support/
FreeBSD	http://www.freebsd.org/ja/security/
Linux	http://www.linux.or.jp/security/

各 OS やアプリケーションのセキュリティ上の問題についての情報収集、分析、再発防止策の検討などを行っている団体もあります。これらの団体についての詳細は表 6.2 の URL を参照してください。

また PC@SFC の Web サイト (<http://pc.sfc.keio.ac.jp/>) では、個人所有 PC でよく使用される OS やアプリケーションのセキュリティ情報を、‘最新情報’ に掲載しています。

表 6.2 セキュリティに関する活動を行っている団体

団体	URL
CERT	http://www.cert.org/
JPCERT	http://www.jpcert.or.jp/
IPA セキュリティーセンター	http://www.ipa.go.jp/security/

6.2 コンピュータウィルス

コンピュータウィルスとは、不特定多数のコンピュータに意図的に被害をもたらすように作られたプログラムです。自己増殖機能とよばれる機能を持ち、コンピュータからコンピュータへ自分のコピーをつくり、次々に被害を与えていく様子が現実にある病原体のウィルスに似ているため、コンピュータウィルスといいます。コンピュータウィルスがコンピュータに侵入することを、同じように“感染”といいます。

コンピュータウィルスに感染すると、自分だけでなく他人にも迷惑をかける可能性があります。また、最近のコンピュータウィルスは、ネットワークを通じて他のコンピュータに感染を広げようとするため、ネットワークにも負荷をかけます。CNSに限らず、ネットワーク環境を利用する際には、コンピュータウィルスに対する知識が必要です。とくにCNS環境は、たくさんのユーザが同時にコンピュータを利用していることもあり、ウィルスが広まりやすい傾向にあります。コンピュータウィルス対策はしっかりと行う必要があります。

また、CNSでコンピュータウィルスが流行する場合、個人所有PCから個人所有PCに感染していく例がほとんどです。個人所有PCはITCによる管理ができませんので、ユーザ個人の責任でコンピュータウィルス対策を心がけましょう。

6.2.1 感染の原因と予防

コンピュータウィルスはWindows, Mac OS, UNIXなどのOSやInternet Explorer, Outlook Expressなどのセキュリティホール(p.26)を悪用して感染活動を行います。また、コンピュータのユーザに巧みにウィルスプログラムを実行させるように仕向けたり、また最近では電子メールを介して感染を広げるものもあります。たとえば、2004年に流行したNetskyというウィルスは、感染するとコンピュータ内部からメールアドレスを自動的に収集し、ウィルスを添付したメールを勝手に送信します。ウィルスが添付されたメールを開いただけでも感染してしまうため、被害が広がりました。

セキュリティホールをふさぐことで、多くのウィルスを予防できます。Windows Update(p.61)などの操作を行ったり、使用しているアプリケーションのセキュリティ情報をこまめにチェックして、セキュリティホールのないよう心がける必要があります。また、電子メールやWebサイト、他人からもらったCD-ROMなどに不審なプログラムがあったら、不用意に実行しないようにしましょう。

またウイルス対策ソフトウェアを導入する方法もあります。ウイルス対策ソフトウェアとは“ワクチンソフト”ともいい、コンピュータウィルスの感染や実行を未然に防いだり、万一感染してしまった場合に駆除するソフトウェアです。Windows 用や Mac OS 用のものが多く市販されています。自分の手でコンピュータウィルスを予防できるか不安な人は、なるべくウイルス対策ソフトウェアを導入してください。代表的なウイルス対策ソフトウェアを表 6.3 に示します。

表 6.3 代表的なウイルス対策ソフトウェア

製品名	製造元	Web サイト
ウイルスバスター	トレンドマイクロ	http://www.trendmicro.co.jp/
Norton AntiVirus	シマンテック	http://www.symantec.co.jp/
VirusScan	マカフィー	http://www.mcafee.com/jp/

ウイルス対策ソフトウェアは“ウイルス定義ファイル”を使います。なおウイルス定義ファイルはウイルス対策ソフトウェアによっては“パターンファイル”などとも表記される場合があります。導入する場合は、ウイルス定義ファイルを定期的に更新してください。ウイルス定義ファイルはウイルスの指名手配書のようなもので、新種のウイルスが発見されると更新されます。ウイルス定義ファイルが古いままだと、ウイルス対策ソフトウェアを導入していても、新種のウイルスには対応できなくなってしまう。ウイルス定義ファイルはオンラインでも更新できるようになっていますので、取扱説明書を読み、定期的に更新する必要があります。

6.2.2 ウイルス感染の対処

万一ウイルスに感染した場合は、ネットワークを通じて感染が拡大するおそれがあるため、すぐに LAN ケーブルを抜いたり、無線 LAN の接続を切るなどし、ネットワークから切り離してください。その後、表 6.2 などに掲載されている情報を参考にして、ウイルスの種類を特定し、ウイルスの除去を行ってください。PC@SFC のページでは、大流行しているウイルスについては対策も含めて掲載しますので、参考にしてください。ウイルス対策ソフトウェアを導入している場合は、コンピュータの全体を検査することで除去できます。

もし、自力で解決できない場合は CNS コンサルタントへ相談してください。また、コンピュータウィルスに感染したまま CNS に接続をしていると、安全のために ITC によって CNS への接続を制限される場合があります。CNS への接続の制限を解除するには、ウイルスに感染していたコンピュータを持参し、ITC の CNS/ERNS サービス窓口で相談してください。

6.3 スパイウェア

コンピュータウイルス (p.27) 同様、PC 内に侵入し被害を与えるように振る舞うプログラムにはスパイウェアがあります。PC にインストールされクレジットカード番号や、ログインパスワードなどの個人情報収集を行います。コンピュータウィルスと異なり感染活動をほとんど行いません。

スパイウェアの侵入経路は、大きく分けて二つあります。一つはソフトウェアの一部としてインストールされる場合、もう一つは Web サイトやメールを閲覧した際にインストールされる場合です。どちらの経路もユーザには気づきづらいのが特徴です。

スパイウェアはセキュリティホール (p.26) を減らすことである程度の侵入を防止することができます。しかし全てを防ぐことはできません。スパイウェアによる被害を防ぐためには、スパイウェアのインストールの有無を定期的に確認しましょう。確認はウィルス対策ソフトウェア (p.28) を利用することでも行えます。また表 6.4 に挙げた専用ソフトウェアも利用できます。詳細は各ソフトウェアの Web サイトを参照してください。

表 6.4 スパイウェア対策ソフトウェア

名称	Web サイト
Ad-Aware	http://www.lavasoft.com/
Spybot - Search & Destroy	http://www.safer-networking.org/

6.4 スパムメール

不特定多数のメールアドレスに送信される電子メールを“スパムメール”と呼びます。スパムメールの対応を誤ると金銭的な被害を受けたり、他の人にも迷惑をかけてしまうことがあります。以下にスパムメールの代表例を挙げます。

- 医薬品の個人輸入の案内
- 違法コピーソフトウェアの販売
- アダルト Web サイトの案内

スパムメールは基本的に無視しましょう。スパムメールは発信者のメールアドレスを偽っていることが多く、苦情のメールなどを返信しても無関係の他人に送られてしまうことがあります。購読解除の手続きを指示している場合がありますが、それには従わないようにしましょう。手続きすることによって自分のメールアドレスを送信者に教え、かえってスパムメールを増やすことになる危険性があるからです。

6.4.1 詐欺目的の電子メール

スパムメールの中には、金銭や個人情報を詐取するのが目的とするものもあります。内容や送信者を巧みに偽装して有名企業を装ったり、うまい話を持ちかけて金銭を詐取するなど多くのパターンがあります。次に詐欺目的の電子メールの例を示します。

- 偽りのパスワード変更要求
- 偽のキャンペーン情報
- 架空請求

6.4.2 ウィルスが発信する電子メール

コンピュータウィルスがスパムメールの送信者の場合もあります。それらが送ってきたメールを不用意に読むとウィルスに感染してしまいます。そのようなメールは多いため、電子メールを読む PC は特にウィルス対策 (p.27) をしておきましょう。

CNS で発行したメールアドレス宛の電子メールに限り、メールの件名からコンピュータウィルスが送信したメールか否かを判断できます。これはメールを受信する際、自動的にウィルスチェックが行われるためです。チェックの結果、疑わしいと判定されたものには “[WARNING: VIRUSSUSPECTED]” と件名に書かれます。またコンピュータウィルスが添付されているメールからはウィルスが削除され、件名は “[VIRUUSREMOVED]” に元の件名が続いたものになります。

7 コンテンツの作成と利用

この章について

ソフトウェアや Web サイトなど、他者の作成したデジタルコンテンツを利用する際には著作権などについて注意を払う必要があります。本章ではデジタルコンテンツ利用における原則と、レポート作成や P2P ファイル交換ソフトウェアを利用する際に気をつけなくてはならないことを紹介します。

7.1 コンテンツ利用の原則

著作物とは思想、または感情を創作的に表現したものです。たとえば文章や音楽、絵画、プログラムなどが該当します。CD やパッケージソフトウェアといった形で流通しているものだけが著作物ではありません。Web サイト上のコンテンツや授業のレポートなども著作物であり、誰かが著作権をもっています。

著作権とは、著作権をもつ人の許可しないところで、著作物が勝手に使用されたり、改変されたり、コピーされたりしないように著作物を守る権利です。レポートを書いたり Web サイトを作成する際に利用するすべての資料は誰かが著作権を持っていることに注意しましょう。

形のないものを守る権利は著作権だけではなく、肖像権、工業所有権などもありますが、ここでは主に著作権について説明します。

次にあげる例は、著作者の許可がある場合を除いて、著作権を侵害しています。

- インターネット上に公開されている画像をコピーして、自分の Web サイトにそれを使用する
- インターネット上に公開されている画像を印刷して、不特定多数の人に配布する
- あたかも自分の書いた文章のように書籍の文章の一部分をレポート中に使用する
- 音楽ファイルを著作者に無断でアップロードする
- 友達がライセンスを購入したソフトウェアを自分のコンピュータにインストールさせてもらう

一方、次のような例は著作者の許可がない場合でも正当な行為です。

- 授業で配るために必要な限度で書籍などをコピーする (教材としての利用)
- 正しく引用する (‘引用’の項を参照)
- 著作権の発生しないものを利用する (‘著作権の発生しないもの’の項を参照)
- オープンコンテンツを利用する (‘オープンコンテンツの利用’の項を参照)

7.2 Web サイトやレポートなどの作成

すべての著作物は、原則として著作者の許可なく利用できません。ただし、著作者の許可なしに利用できる特別な場合もあります。より良い Web サイトやレポート、映像作品を作成するために、著作権を侵害しないように気をつけて、著作物を活用しましょう。

ここでは、他人の作成した著作物を正しく活用するための方法を説明します。

7.2.1 引用

他者の著作物は、引用というかたちをとれば許可を取らずに利用できます。引用とは、報道や批評、研究などの目的で他者の著作物の一部を転載することです。例えば、レポート中で他の文献を部分的に参照する場合などがこれにあたります。引用の際は次の条件を満たす必要があります。

- 出所と著作者名を明記すること
- 本文と引用部分が明らかに区別できること
- 著作物を引用する必然性があること
- 引用の範囲に必然性があること
- 質的量的に引用する部分が‘従’であり、引用先が‘主’であること
- 引用元が公表された著作物であること

7.2.2 著作権の発生しないもの

次に示すものは著作権が発生しないので、自由に利用ができます。

- 時事の報道や短い文章などの、創作性がないもの
- 憲法・法律・政令や官報といった、国・地方自治体・独立行政法人が発するもの

7.2.3 オープンコンテンツ

特にインターネットで流通している著作物では、著作者がある程度の著作権を行使しないで、著作物を共有した状態に置く場合があります。こうした著作物は“オープンコンテンツ”とよばれ、一般的な著作物より自由に利用できます。著作物の自由な利用を許して自分の著作物が広く用いられることをよしとする著作者が、数多くのオープンコンテンツを公開しています。これらはしばしば表??のような著作物の利用規約を用いて配布されています。オープンコンテンツの著作物の多くは、これらの利用規約の URL が明記されているか、COPYING や COPYRIGHT, readme.txt などのファイル名で著作物に付属し、容易に利用規約を参照できるようになっています。

これらのオープンコンテンツの著作物を利用する際は、利用規約をよく読んで有効に活用しましょう。また自分が作成した Web サイトやレポートなどの著作物を広く利用してもらいたい場合は、これらの利用規約を適用するのもよい方法です。

表 7.1 オープンコンテンツの利用規約の例

利用規約の名前	閲覧できる URL
クリエイティブ・コモンズ・ライセンス	http://www.creativecommons.jp/
GNU 一般公衆利用許諾契約書	http://www.gnu.org/licenses/gpl.ja.html
GNU フリー文書利用許諾契約書	http://www.gnu.org/licenses/fdl.ja.html

7.3 P2P ファイル交換ソフトウェア利用上の注意

現在 WinMX, Winny, Gnutella などの P2P ファイル交換ソフトウェアを通じた、音楽・映像ファイルやソフトウェアの不正な交換が社会問題となっています。P2P ファイル交換ソフトウェアを利用すること自体は違法ではありませんが、これを用いて不正なコピーを行う著作権侵害行為が増加し、問題となっています。

これを受け、慶應義塾 ITC 本部は”P2P ファイル交換ソフトウェアの利用について (<http://www.itc.keio.ac.jp/p2p/>)”という規則を全塾のネットワークに適用しています。P2P ファイル交換ソフトウェアは、慶應義塾では事前申請を行わないと利用できません。CNS で P2P ファイル交換ソフトウェアを利用する場合は必ず ITC へ利用申請書を提出してください。教育・研究目的にのみ利用が許可されます。

以下に、利用申請が必要な P2P ファイル交換ソフトウェアを示します (2006 年 2 月 26 日現在)。最新情報および詳細は <http://www.itc.keio.ac.jp/p2p/> を参照してください。

- Gnutella 及びその互換ソフト
- WinMX 及びその互換ソフト (iShare, Utatane など)
- Winny
- BitTorrent
- KaZaA
- eDonkey 及びその互換ソフト (OneMX など)

8 講義に関連した CNS 上のサービス

この章について

SFC の講義では CNS をさまざまな形で利用します。レポートの製作や実習だけではなく、レポートの提出や講義の予約なども CNS 上のサービスを利用して行います。本節ではそれら講義に関連したサービスを紹介します。

8.1 レポートシステム

レポートシステムは Web または電子メールを利用してレポートを提出できるシステムです。すべての科目がレポートシステムを提出に用いているとは限りません。レポート提出の際は必ず担当教員の指示にしたがってください。利用の詳細はレポートシステム学生向けマニュアル (<https://report.sfc.keio.ac.jp/student/>) を参照してください。

8.1.1 注意事項

レポートシステムでは、提出される課題によって提出方法が異なります。Web サイトからの提出と電子メールによる提出に共通する注意事項は次の通りです。また課題の他の条件にも十分に注意してください。

- レポート名
- 受付期間と締切時刻
- ファイル提出

レポートシステムでは提出するレポートがどの課題に対するものか特定するために、課題ごとに‘レポート名’という名前をつけています。レポート名には担当教員から指定されたものを書いてください。レポート名は担当教員から指示に従うか、A 館の掲示板またはレポートシステムの Web サイト (<https://report.sfc.keio.ac.jp/>) の各課題のページを参照してください。

レポートシステムでの提出受け付け期間は担当教員から直接指示されるか、A 館掲示板、またはレポートシステムの Web サイト (<https://report.sfc.keio.ac.jp/>) の各課題のページに掲載されます。受け付け期間以外にレポートを提出した場合、システムはレポートを受理しません。提出期間を確認した上で必ず期間内に提出してください。時間は 24 時間表記で 05:00:00 であれば午前 5 時を表します。レポートシステムに関する質問は電子メール (report-request@sfc.keio.ac.jp)、または事務室学事担当で受け付けています。

課題によってはワープロソフトなどで作成したファイルでの提出を受け付ける場合があります。ファイル提出は Web サイトからの提出のみで受け付けます。その際ファイル形式およびファイ

ル容量の制限に注意してください。提出可能なファイル形式は PostScript, PDF, Excel, Word です。またファイル容量の上限は 3MB です。

8.1.2 Web サイトからの提出

Web サイトからレポートを提出する方法を説明します。トップページ (<https://report.sfc.keio.ac.jp/>) から CNS アカウントでログインします。次に登録されているレポートシステムの課題を検索します。科目名, 課題名, 授業担当者名, レポート名, 受付期間のいずれかを条件に検索できます。表示される結果中の [詳細/提出] をクリックすることで, レポートを提出できます。

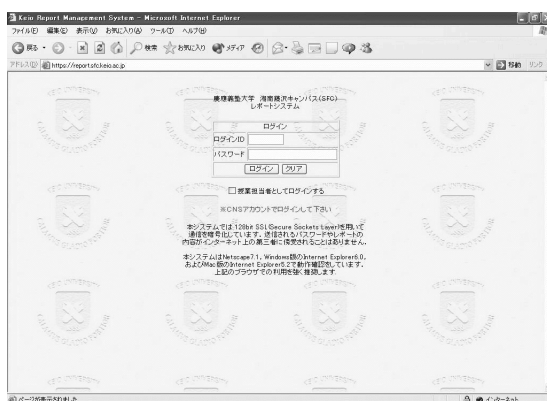


図 8.1 レポートシステムログイン画面

Web サイトからの提出の場合, 所定の欄にレポートの文章を入力します。ただしセキュリティの関係上 24 分で接続が切れるため, 直接入力するよりあらかじめ作成しておいたレポートをコピー・アンド・ペーストするほうが効率的です。またレポート画面には必ず学籍番号と氏名を入力しましょう。作成後画面下の [提出] ボタンを選択するとレポートが送信されます。提出したレポートがシステムに受理されると, Web サイト上に受理のメッセージが表示されます。レポート名, 添付ファイルのファイル名を確認してください。‘正常に受理されました’という旨のメッセージ以外が表示された場合には, 間違いを訂正したうえで再度提出してください。受理されたことを確認したら提出したことの記録とするため, 提出したレポート名を指定してダウンロードして保存し, 内容を閲覧・確認しましょう。

8.1.3 電子メールによる提出

電子メールでレポートを提出するときには, report@sfc.keio.ac.jp に電子メールを送ります。電子メールによる提出では, Web サイトからの提出とは異なりファイルは添付できません。また, LaTeX 形式で提出できます。

電子メールによる提出の場合は, メールの件名 (Subject) にレポート名を入力します。その際レポート名を間違えないよう気をつけましょう。レポート名は英数字とハイフン ‘-’ を使った文字列で, 間にスペースが入っていることはありません。また, ‘i’ (小文字のアイ), ‘l’ (小文字のエル),

‘1’(アラビア数字のいち), ‘I’(大文字のアイ) は間違いやすいので注意してください。

電子メールによる提出の場合は、メールの本文にレポートの本文、または LaTeX のソースを直接書き入れる (貼りつける) ことになります。レポート本文には必ず学籍番号と氏名を記載してください。また 1 行は英数字で 75 文字、日本語で 35 文字程度にしてください。改行がなく 1 行が長過ぎると、文字化けが起こることがあります。

レポートシステムは、電子メールの送信者から提出者を判断します。電子メールでの提出の際には、必ず自分の CNS アカウントからメールを送ってください。他人のメールアカウントや CNS 以外のメールアカウントから送信しても、自分が提出したことにはならないので気をつけましょう。

提出したレポートがシステムに受理されると `report-master@sfc.keio.ac.jp` から受理通知のメールが届きます。このメールは提出の記録として保管しておいてください。受理されない場合は、エラーを通知するメールが届きます。

8.2 その他の講義関連システム

レポートシステム以外にも、CNS では次に示すシステムが利用できます。

- SFC-SFS
- 体育システム
- 慶應義塾大学学事 Web システム

SFC-SFS とは授業に関わる諸問題を履修者、教員、職員の 3 者が一緒に考え、優れた教育環境・内容を構築することを目指した授業調査システムです。学生は Web ブラウザから SFC-SFS の Web サイト (<https://vu2.sfc.keio.ac.jp/sfc-sfs/>) を開き、CNS アカウントでログインして操作を行えます。

体育およびの授業に出席するには予約が必要です。体育システムは体育の授業予約を行うシステムです。学生は Web ブラウザで体育システムの Web サイト (<https://wellness.sfc.keio.ac.jp/>) を開き、CNS アカウントでログインして体育の授業予約やその取り消しなどを行えます。

学事 web システムは慶應義塾大学の学事に関する申請や情報の確認が行えるシステムです。学生は Web ブラウザから学事 Web システムの Web サイト (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を開き、学事 Web システムのアカウントでログインして利用できます。学事 web システムのアカウントは CNS アカウントとは異なります。学籍番号と学生証のケースに印刷されたパスワードを利用してください。また学事 Web システムは携帯電話からも利用できます。

第II部

ノートPCの初期設定

1 CNS への接続

この章について

学内では二通りの手段を用いてノート PC を CNS に接続できます。ひとつは有線での接続で、もうひとつは無線での接続です。また学外からもプロバイダなどのネットワークを経由することで、CNS に接続できます。ここではそれぞれの手法に応じた設定方法を説明します。

1.1 有線接続

教室の中には“情報コンセント”(図 1.1)が用意されているものがあります。情報コンセントには電源コンセントと有線 LAN のポートが 2 つずつ用意されており、これとノート PC の LAN ポートとを LAN ケーブルで接続することで、CNS へ接続できます。



図 1.1 情報コンセント

1.2 無線接続

キャンパス内では無線による CNS への接続も可能です。“無線 LAN”とは、電波を用いてネットワーク接続を行うシステムの総称です。無線 LAN にはさまざまな標準規格がありますが、CNS では‘IEEE802.11b’を利用できます。

一般に IEEE802.11b を利用する場合には ESSID と WEP キーを設定しますが、キャンパス内では WEP キーの設定は必要なく、ESSID を 000000SFC に設定すれば CNS に接続できます。

1.2.1 Windows での無線接続

WindowsPCで無線接続するには、まず[スタート]メニュー中の[接続(T)]から[ワイヤレスネットワーク接続]を選びます。表示されるウィンドウの[ワイヤレスネットワークの表示]ボタンを押してください。ワイヤレスネットワークの一覧(1.2)が表示されるので、そのなかから‘000000SFC’を選びます。初回接続時には“セキュリティで保護されていないネットワークに接続しようとしています”という警告が表示されますが[接続]を押しましょう。しばらくすると接続されたことが表示されます。

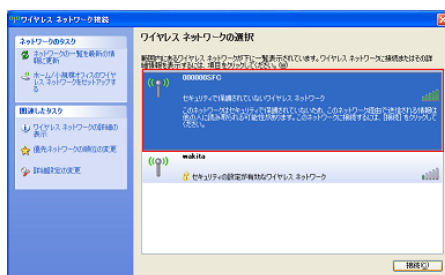


図 1.2 ワイヤレスネットワークの一覧

1.2.2 接続できない場合

接続できない場合、まず無線 LAN の電源が入っていることを確認しましょう。ノート PC の中には無線 LAN の電源スイッチを持つものがあります。スイッチが ON の位置にあることを確認してください。スイッチがないものでも、キーボードから無線 LAN の使用/不使用を切り替えるものもあります。利用するキーは機種によって異なりますので、詳しい操作はマニュアルなどを参照してください。

無線 LAN の電源が入っている場合は、無線 LAN の修復をします。[スタート]メニューから[コントロールパネル]を選びます。表示されたアイコンの中から、ネットワーク接続を選択します。[ワイヤレスネットワーク接続]を右クリックして表示されるメニューの中から[修復(P)]を選びます。修復処理が始まりますから、しばらく待ちましょう。完了したことが表示されれば、無線接続できます。

1.3 キャンパス外からの接続

学外からでも一般のインターネット回線から、電子メールやファイル転送など CNS の多くのサービスを利用できます。しかし一部のサービスについては、学内からの利用のみ許可している場合があります。以下の方法で学内からと同等のサービスを利用できます。

1.3.1 VPN 接続

何らかの手段でノート PC を一般のプロバイダ経由でインターネットに接続できる場合、CNS まで暗号化した通信路を確保し、直接 CNS に接続されているのと同等の状態にできます。これ

により CNS 内や塾内に限定されているサービスが、一般のプロバイダから利用できます。この技術を‘VPN’(Virtual Private Network)といいます。

CNS では Web ブラウザを用いる“Web VPN サービス”，Windows で利用できる“L2TP-VPN サービス”，専用のアプリケーションを用いる“IPSec VPN サービス”が用意されています。Web VPN サービスでは，VPN 経由で利用できるサービスは Web のみに限られますが，Web ブラウザ以外に特別なアプリケーションを用意する必要がありません。他のサービスでは一度設定が必要となりますが，Web 以外の通信も暗号化して行うことができます。

VPN サービスの詳細と個人所有 PC での設定方法は，ITC の VPN サービスの Web ページ (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/vpn/>) を参照してください。

1.3.2 フレッツサービスの利用

神奈川県内と町田市および稲城市の一部であれば，NTT 東日本のサービスであるフレッツ・ISDN，フレッツ・ADSL や B フレッツを利用して，CNS へ接続できます。この場合学内と同等のサービスが利用できます。ただし NTT 東日本・SFC 間の専用線の通信速度が 1.5Mbps しかないため，それ以上高速なフレッツサービスを用いても 1.5Mbps 以上の速度は得られません。

フレッツサービスを用いて CNS へ接続する方法については，ITC のフレッツサービスの Web ページ (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/flets/>) を参照してください。フレッツサービスの申し込みなどについては，NTT 東日本のフレッツサービスの Web ページ (<http://www.flets.com/>) を参照してください。

1.3.3 ダイヤルアップ接続

一般の電話回線や ISDN 網，および PHS(PIAFS Ver.2.1) を経由して CNS へ接続できます。これを“ダイヤルアップ接続”といいます。CNS では PPP(Point-to-Point Protocol) という通信規格を利用します。この方式を利用する接続を“PPP 接続”といいます。

ダイヤルアップ用電話番号，接続可能台数や機能の変更は ITC のダイヤルアップ接続の Web ページ (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/ppp/>) を参照してください。Web ページには設定方法も記載されています。

2 リモートホストへの接続

この章について

コンピュータの前で直接利用してログインするのではなく、遠隔地のコンピュータに別のコンピュータからネットワーク経由でログインすることを“リモートログイン”と呼びます。CNSにはリモートログインできるサーバが用意されています。これらにリモートログインすることで、個人所有PCからもCNSのサービスを利用できます。リモートログインには‘SSH’(Secure SHell)という仕組みを用います。SSHを用いた通信は暗号化されるので、ほかのリモートログインの手段に比べて安全に操作を行えます。

2.1 CNS のサーバ

CNSにはリモートログインできるUNIXサーバが用意されており、原則として1日24時間利用できます。メンテナンスなどで停止する場合は、ITCのWebサイト<http://itc.sfc.keio.ac.jp/>で告知されます。表2.1にリモートログインできるサーバの一覧を示します。

表 2.1 リモートログインできるサーバ

ホスト名	OS	利用目的
ccz00	Solaris 8	リモートログインサーバ
ccz02	Solaris 8	リモートログインサーバ
ccz03	Solaris 8	データベースサーバ
ccx00	Debian GNU/Linux 3.0	リモートログインサーバ
mail	Solaris 8	電子メールサーバ
webedit	Debian GNU/Linux 3.0	個人ページ作成・テスト用サーバ
cs0	Solaris 8	卒業生用のリモートログインサーバ

2.2 Windows でのリモートログイン

WindowsからSSHでリモートログインするには、SSHクライアントと呼ばれるソフトウェアをインストールする必要があります。ここでは、代表的なSSHクライアントであるPuTTYを利用して、WindowsからCNSにリモートログインする方法について説明します。

PuTTYとはSimon Tatham(<http://www.chiark.greenend.org.uk/>)が作成したソフトウェアです。英語圏での使用を想定しているので、日本語を表示できない場合があります。日本語を

使用するには、榮樂 英樹 (<http://www.coins.tsukuba.ac.jp/>) が作成した日本語版 PuTTY を利用の方が良いでしょう。

2.2.1 PuTTY のインストール

PuTTY は <http://hp.vector.co.jp/authors/VA024651/download.html> よりダウンロードできます。Web ページ中の「PuTTY で ISO 2022 による日本語入力・表示を可能にするパッチ」から「executable files (PuTTY version 0.58 にパッチをあてた実行ファイル puttyjp.exe)」(2006 年 2 月現在) をダウンロードしましょう。リンクをクリックすると [ファイルのダウンロード] というウィンドウが表示されます。[保存] を押し、保存する場所を指定します。保存する場所は任意ですが、わからない場合はデスクトップにしましょう。

ダウンロードが完了したら [ファイルを開く] を選択し、[puttykjbinst-20050503.zip] のアイコンをダブルクリックします。[圧縮 (zip 形式) フォルダの警告] (図 2.1) が表示されるので、[すべて展開 (X)] を押します。[展開ウィザード] が始まります。[次へ (N)>] を押して先に進みましょう。‘ファイル展開先フォルダを選択してください’ と表示されるので、[C:\Program Files\PuTTY] と設定し、[次へ (N)>] を押します。‘ファイルは正常に ZIP アーカイブから展開されました’ と表示されたら、[完了] を押します。

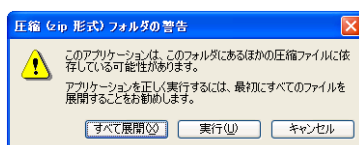


図 2.1 圧縮 (zip 形式) フォルダの警告

スタートメニューとデスクトップにショートカットを作ってみましょう。スタートメニューには、[puttyjp.exe] の上で右クリックし、[[スタート] メニューにアイコンを追加] を押します。デスクトップに作成するには、同じように puttyjp.exe を右クリックし (図 2.2), [送る] から [デスクトップ (ショートカットを作成)] を押します。[スタート] を押し、スタートメニューを表示してショートカットが作成されていることを確認します。デスクトップも確認してください。

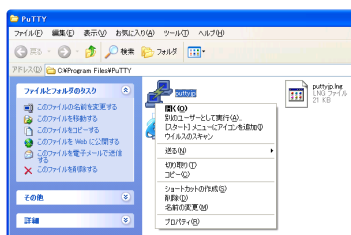


図 2.2 ショートカットの作成

2.2.2 PuTTY の接続方法

図 2.3 のように、接続先を指定します。‘ホスト名 (または IP アドレス)(N)’ に接続先のホスト名 (‘ccz00.sfc.keio.ac.jp’ など) を入力します。‘保存されたセッション (E)’ に適当な名前 (‘大学’ など) を入力し、[保存 (V)] を押します。保存をしておけば、次回ログインする時に ‘保存されたセッション’ から接続したいホスト名や IP アドレスを選択し [読み込み (L)] を押すだけで [開く (O)] から接続することができます。

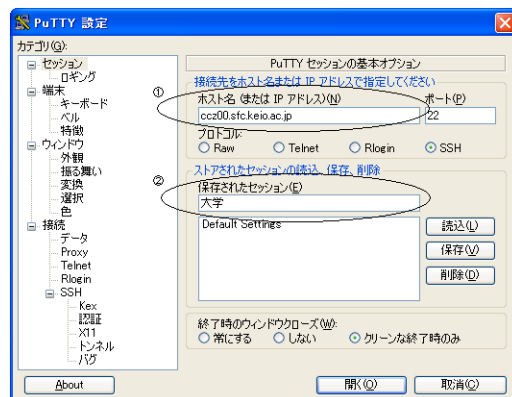


図 2.3 PuTTY での接続先指定

接続先の指定後、[開く (O)] ボタンを押すことで接続が始まります。はじめて接続するリモートホストの場合は、図 2.4 のように、接続先のホストを信頼するかを聞くダイアログボックスが表示されます。[はい (Y)] を押して接続を続行しましょう。その後ログイン名とパスワードの入力を求められるので、CNS のログイン名とログイン用のパスワードを入力します。認証できればリモートログインできます。



図 2.4 PuTTY Security Alert

2.2.3 ログアウトと終了方法

‘logout’ とコマンドを入力すると、リモートホストからログアウトして PuTTY のウィンドウが自動的に閉じます。ウィンドウが自動的に閉じない場合は、PuTTY のウィンドウの右上にある [×] アイコンをクリックすることで閉じることができます。

2.3 Mac OS でのリモートログイン

Mac OS から SSH でリモートログインを行うには、OS に付属の‘ターミナル’から ssh コマンドを利用します。次にターミナルを用いたリモートログインの方法を説明します。

2.3.1 ターミナルの起動と終了

Dock の Finder アイコンを押し、表示されたウィンドウ上部のアプリケーションアイコンを押します。アプリケーションフォルダが表示されるので、その中にある Utilities フォルダをダブルクリックします。ターミナルというアプリケーションをダブルクリックすると、ターミナルが起動します (Mac OS のバージョンにより、Utilities フォルダは‘ユーティリティ’、ターミナルは‘ターミナル’と表示されます)。

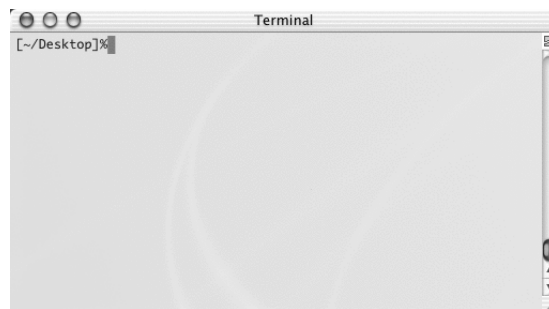


図 2.5 ターミナル

ターミナルの終了には、ターミナルのメニュー [ターミナル] から [ターミナルを終了] を選択します。

2.3.2 リモートログイン

ターミナルが起動すると % が表示されてキー入力可能な状態になります。ssh(ログイン名)@(ホスト名) の書式でコマンドを実行します。例えばリモートホスト ccz00.sfc.keio.ac.jp にユーザ t00000tf としてログインする場合は、次のように入力します。

実行例

```
% ssh t00000tf@ccz00.sfc.keio.ac.jp  
% █
```

リモートホストのユーザのパスワードを聞かれるので、CNS のパスワードを入力して<ENTER>を押すと、リモートホストにログインできます。リモートホストからログアウトするには、logout コマンドを実行します。ssh コマンドの使い方は UNIX と同様です。

3 ファイル転送

この章について

ノート PC で作成したファイルを CNS へ転送するためには、ファイル転送用のソフトウェアを利用します。転送用のソフトウェアは数多く存在しますが、本節では Windows 用の WinSCP と Mac OS 用の fugu を例に初期設定を解説します。

3.1 Windows でのファイル転送

WinSCP とは、Windows のコンピュータから SSH を用いてファイルの転送を行うアプリケーションの 1 つです。このページでは、WinSCP を使って CNS へファイルを送る方法について説明します。

3.1.1 WinSCP のダウンロード

Web ブラウザで '<http://winscp.sourceforge.net/>' を開きます。ページ上部の [Download] を選択すると、次のページの中ほどにソフトウェアの一覧が表示されるので、最新版のインストールパッケージを選択し、ダウンロードします。'Installation package' をクリックすると、ダウンロード可能なサイトの一覧が表示されるので、いずれかの [Download] をクリックします。ダウンロードの確認が表示されるので、ダウンロード先にデスクトップなど適当な場所を指定して保存します。

3.1.2 WinSCP のインストール

ダウンロードしたアプリケーションのアイコンをダブルクリックし、インストールします。セットアップウィザードにしたがって、インストールを実行します。特に希望がなければ初期設定のままでかまいません。

日本語用の言語ファイルを追加することで、WinSCP を日本語で表示することができます。すべての部分を日本語化することはできないので注意してください。また基本操作の項では日本語化していないものとして説明をしています。

Web ブラウザで、<http://winscp.net/eng/translations.php> を開きます。言語の一覧が表示されるので、Japanese を選択し、ダウンロードします。ダウンロードしたファイルを展開し、フォルダ内の WinSCP3.jp をコピーして、前節で WinSCP をインストールしたフォルダ (初期設定では C:\ProgramFiles\WinSCP3) におきます。デスクトップにある WinSCP のアイコン、またはスタートメニューから、[すべてのプログラム] → [WinSCP3] → [WinSCP] を選択して WinSCP

を起動します。‘WinSCP Login’ ウィンドウが表示されるので、左下部にある [Languages] をクリックし (図 3.1), [Japanese - 日本語 (J)] を選択します。



図 3.1 WinSCP の利用言語選択

3.1.3 リモートホストへの接続

デスクトップにある WinSCP のアイコン, またはスタートメニューから [すべてのプログラム] → [WinSCP3] → [WinSCP] を選択します。WinSCP を起動すると, ‘WinSCP Login’ ウィンドウが表示されます (図 3.2)。ウィンドウの左側にあるメニューの [Session] を選択し, 右側に表示されるテキストボックス必要事項を入力します。

‘Host name’ には接続したいリモートホスト名 (図 3.2では ccz00.sfc.keio.ac.jp), ‘Port number’ は 22, ‘User name’ には CNS のログイン名 (図 3.2では t00000tf), ‘Password’ には CNS パスワードを入力します。[Save] を押すと内容が保存され, 次回からは入力が不要になります。



図 3.2 WinSCP の接続先指定

なお, 入力するリモートホスト名は, 利用目的によって異なります (表 3.1)。詳細は ITC のホームページ <http://itc.sfc.keio.ac.jp> からを参照してください。

表 3.1 リモートホストの例

サーバ名	用途
ccz00.sfc.keio.ac.jp	コミュニケーションサーバ
ccz02.sfc.keio.ac.jp	コミュニケーションサーバ
ccz03.sfc.keio.ac.jp	データベースサーバ
webedit.sfc.keio.ac.jp	CGI などの設定・動作確認用サーバ

[Login] を押してリモートホストへ接続します。はじめてログインするリモートホストの場合、そのホストへの接続を確認するウィンドウが表示される (図 3.3) ので、[Yes] を押します。

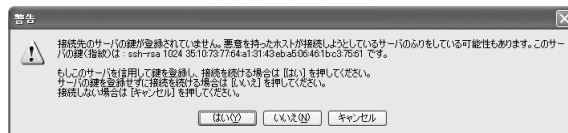


図 3.3 はじめてログインするホストの確認

3.1.4 WinSCP の基本操作

ログインが成功すると、ウィンドウの左側にローカルホスト (自分のコンピュータ)、右側にリモートホスト (接続先のコンピュータ) のディレクトリ一覧が表示されます (図 3.4)。

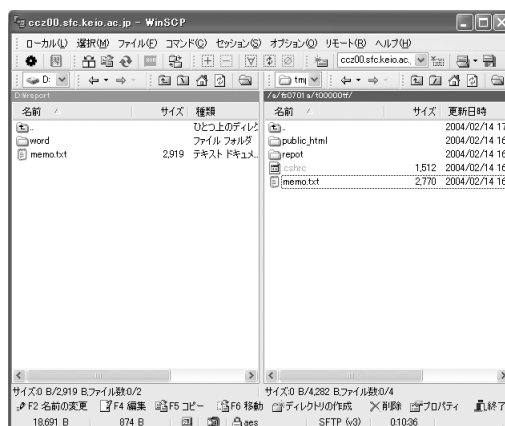


図 3.4 WinSCP のメインウィンドウ

ファイルの転送

転送したいファイルを選択し、ウィンドウ下部の [F5 Copy] をクリック、もしくはキーボードの<F5>を押すとコピー先の確認が表示されます。コピーを押すと、ローカルホストからリモートホスト、またはリモートホストからローカルホストへファイルが転送されます。なお、ファイルのドラッグ・アンド・ドロップでも転送できます。

[F6 Move] をクリック、もしくはキーボードの<F6>を押すと、ファイルは転送元のホストに残らず転送先に送られます。

ファイルの転送の際、ローカルホスト側に表示されているフォルダの名前に日本語が含まれている場合は、うまくファイルが転送されないことがあるので注意してください。

ディレクトリの作成

ディレクトリを作成したい側を選択し、ウィンドウ下部の [F7 Create Directory] をクリック、もしくはキーボードの<F7>を押します。ディレクトリ名を入力するウィンドウが表示されるので、

ディレクトリの名前を入力して [OK] を押すと、ディレクトリが作成されます。

ファイルやディレクトリ名の変更

名前を変更したいファイルやディレクトリを選択します。ウィンドウ下部の [F2 Rename] をクリック、もしくはキーボードの<F2>を押します。変更後の名前を入力して [Enter] を押すと、名前が変更されます。

ファイル名やディレクトリ名に日本語を使った場合、UNIX でファイルを閲覧したときにうまく表示できないことがあります。名前には英数字を用いましょう。

ファイルやディレクトリの削除

削除したいファイルやディレクトリを選択します。ウィンドウ下部の [F8 Delete] をクリック、もしくはキーボードの<F8>キーを押すと削除できます。またキーボードのでも削除ができます。削除の確認が表示される場合は、[OK] を押すと削除されます。

切断

ウィンドウ下部の [F10 Quit] をクリックします。キーボードの<F10>を押しても切断できます。接続を終了するか問うウィンドウが表示される場合は、[OK] を押すと WinSCP が終了します (図 3.5)。



図 3.5 切断確認ダイアログウィンドウ

3.2 Mac OS でのファイル転送

Mac OS でファイル転送を行うソフトの 1 つに、Fugu があります。Windows の場合と同様、マウス操作でファイルの転送が行えます。ただしリモート側のファイル名やディレクトリ名に日本語の文字があると、正常に動作しないことがあります。

3.2.1 インストール

Fugu の Web サイト (<http://rsug.itd.umich.edu/software/fugu/>) を開き、'download' を選び、最新のディスクイメージをダウンロードします。ダウンロードしたファイル名が'.dmg' で終わるファイルをダブルクリックし、マウントします。表示された Fugu のアイコンを、Mac OS の 'アプリケーション' など適切なフォルダへ移動します。ダウンロードしたファイルはゴミ箱へドラッグすることで、マウントを解除します。移動した先の Fugu のアイコンを選択すると Fugu が起動します。

3.2.2 Fugu でのファイル転送

Fugu を起動すると図 3.6 のような画面が表示されます。‘Connect to:’ の欄にリモートホスト名, ‘Username:’ の欄に CNS のログイン名を入力し, [Connect] ボタンを押して接続します。

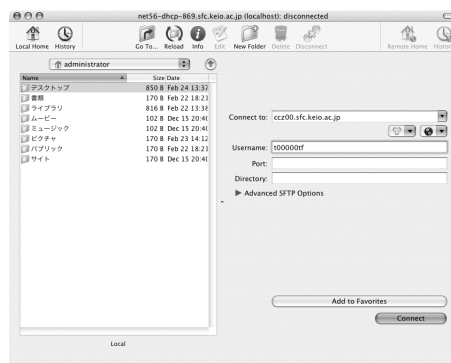


図 3.6 ログイン先の入力

次の画面でパスワードを尋ねられるので, CNS パスワードを記入し [Authenticate] を押します。正常に認証されると, メインウィンドウ (図 3.7) 左側にローカルホスト (自分のコンピュータ), 右側にリモートホスト (接続先のコンピュータ) のディレクトリ一覧が表示されます。

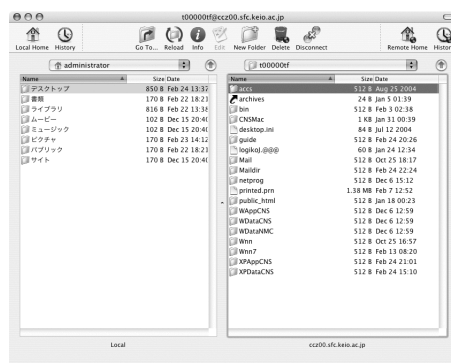


図 3.7 Fugu のメインウィンドウ

転送したいファイルをドラッグ・アンド・ドロップすることで, ファイルを転送できます。たとえばローカルからリモートに転送するには, 左のディレクトリ一覧から転送したいファイルを, 右の現在のディレクトリへドラッグ・アンド・ドロップします。

転送終了後はリモートホストとの接続を切断します。メニューアイコンの [Disconnect] ボタンを押すと, リモートホストとの接続を切断でき Fugu を安全に終了できます。

4 電子メールを利用するための初期設定

この章について

SFCで生活するうえで電子メールは欠かせません。電子メールを利用するためのソフトウェアは多くありますが、ここではサイトライセンスしている Becky! Internet Mail と Mac OS に標準で添付されている Mail を例に初期設定方法を解説します。

4.1 Windows での電子メールの利用

Windows で電子メールを利用するためのメールソフトウェア Becky! Internet Mail (以下、Becky!) のインストール手順と IMAP で電子メールを利用する際の設定方法を説明します。詳しい使い方はを製造元の Web サイト (<http://www.rimarts.co.jp/>) 参照してください。

Becky!はシェアウェア (有料ソフトウェア) ですが、慶應義塾大学ではライセンスをまとめて契約しています。Becky!を利用する場合は ITC の Web サイト (<https://itc.sfc.keio.ac.jp/soft/>) から申請してください。

4.1.1 Becky!のインストール

製造元の Web サイト (<http://www.rimarts.co.jp/>) を Web ブラウザで開きます。そこからファイルをダウンロードして、適切なところに保存してください。

ダウンロードしたファイルをダブルクリックし、実行するとインストールが始まります。特に指定する必要のない場合はそのまま [OK] を押して次へ進んでください。インストールが終了すると「セットアップが完了しました。続いて表示される Readme.txt をお読みください。」というダイアログウィンドウが表示されます。[OK] を押して Readme.txt を表示します。ひととおり目を通したら、ウィンドウを閉じてください。

4.1.2 初期設定

Becky!を実際に利用するのに必要な設定の手順を説明します。この設定を行う前に「IMAP パスワード」を参照して事前に IMAP パスワードを設定しておく必要があります。デスクトップに Becky! のアイコン (図 4.1) ができているので、これをダブルクリックします。



図 4.1 Becky!のアイコン

52 第 II 部 4 電子メールを利用するための初期設定

まず Becky!用のデータフォルダを作成します。Becky!のメールのデータの保存場所の入力が求められるので適切なフォルダを指定します。特に指定する必要のない場合は、そのままにして[OK]を選択してください。

次に使用許諾契約書が表示されます。Becky!を使うためにはこの契約書に同意しなければなりません。同意する場合には[同意する]を押します。同意できない場合には、Becky!は利用できません。[同意する]を選択した場合は、プラグインのインストールへと進みます。プラグインとは、ソフトウェアの機能を強化するソフトウェアです。Becky!をはじめて起動すると、Becky!に標準で用意されているプラグインが検出されます。標準で用意されているプラグインは安全なソフトウェアなので、ここでは[OK]を押します。

シェアウェア登録に移ります(図 4.2)。登録パスコードを既に取得している場合は、[ライセンス購入済み、ユーザー登録を行います。]を押してください。まだ登録パスコードを取得していない場合には、[OK]を押し、試用期間(30 日間)中に <https://itc.sfc.keio.ac.jp/soft/> で登録パスコードを取得し、ユーザ登録をしてください。

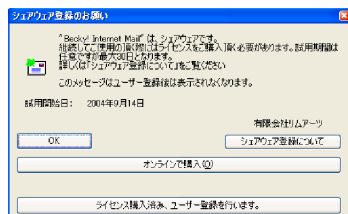


図 4.2 シェアウェア登録

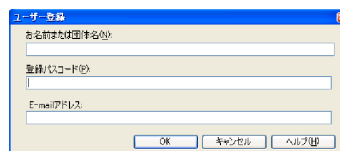


図 4.3 ユーザ登録

ユーザ登録(図 4.3)にすすみます。前もって取得した登録パスコードを入力して、[OK]を選択してください。

ここまでの設定が完了すると、メールボックスの設定ウィンドウ(図 4.4)が表示されます。もしこのウィンドウが表示されなかったり、ウィンドウを閉じてしまった場合は図 4.5のボタンを押しましょう。ウィンドウを表示できます。

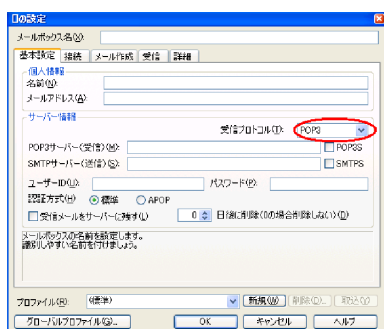


図 4.4 メールボックスの設定 (1)



図 4.5 メールボックス設定ボタン

図 4.4の丸で囲われた部分は‘POP3’になっています。この‘受信プロトコル(T)’の欄を‘IMAP4rev1’

に変更してください。変更後、他の入力欄が図 4.6 のように変わります。ここで図 4.6 の丸で囲われた部分を表 4.1 のように設定しましょう。

表 4.1 メールボックスの設定

メールボックス名	好きなメールボックスの名前
名前	自分の名前
メールアドレス	自分のメールアドレス (例:t00000tf@sfc.keio.ac.jp)
IMAP サーバー (受信)	imap.sfc.keio.ac.jp
SMTP サーバー (送信)	smtp.sfc.keio.ac.jp
ユーザー ID	CNS のログイン名 (例: t00000tf)
認証方式	CRAM-MD5

入力が終わったら、さらに、同じウィンドウの [詳細] タブを選択して、図 4.7 のような画面に移ります。丸で囲われた部分の 'SMTP 認証' と 'CRAM-MD5' とをチェックします。以上で Becky! の初期設定は終わりです。

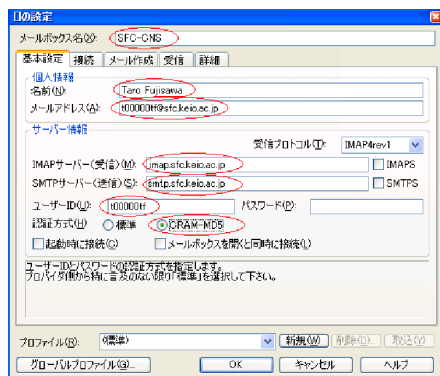


図 4.6 メールボックスの設定 (2)

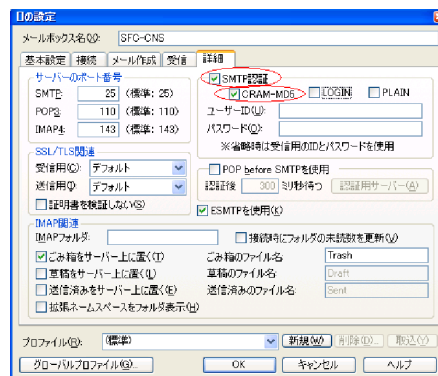


図 4.7 メールボックスの設定 (3)

4.2 Mac OS での電子メールの利用

Mac OS では、OS とともにメールソフトウェア Mail(以下、Apple Mail) がインストールされています。ここでは Apple Mail の IMAP でメールを利用するための設定方法を説明します。



図 4.8 Apple Mail のアイコン

デスクトップ画面下部の Dock のアイコン (図 4.8) から Apple Mail を起動します。起動すると‘ようこそ Mail へ’というウィンドウが表示されます。その入力フォームに表 4.2 のように入力をしてください。この設定は Apple Mail を起動した状態でメニューにある [Mail] から [環境設定] を選べば何度でもやり直せます。

表 4.2 Apple Mail 初期設定

氏名	自分の名前
メールアドレス	自分のメールアドレス (例:t00000tf@sfc.keio.ac.jp)
受信用メールサーバ	imap.sfc.keio.ac.jp
アカウントの種類	‘IMAP’ を選択
ユーザ名	CNS のログイン名 (例:t00000tf)
パスワード	IMAP 用のパスワード (空欄でも可)
送信用メールサーバ (SMTP)	smtp.sfc.keio.ac.jp

[OK] を押して次に進むとそれまでに利用していたメールソフトウェアのメールボックスを Apple Mail に読み込むかどうかを問われます。初めてメールの設定をする場合はそのまま [いいえ] を選択して次に進んでください。

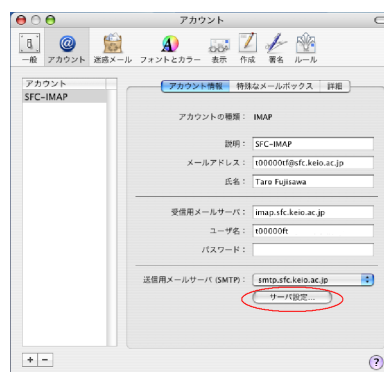


図 4.9 アカウント情報の入力

次にアカウント情報の設定します。設定は表示されるアカウント情報を入力するウィンドウ (図 4.9) から行います。現れない場合は Apple Mail を起動した状態でメニューにある [Mail] から [環境設定] を選んでください。アカウント情報は表 4.3 のように入力してください。

表 4.3 アカウント情報

説明	このメールアカウントの説明文 (例:大学)
メールアドレス	自分のメールアドレス (例:t00000tf@sfc.keio.ac.jp)
氏名	自分の名前
受信用メールサーバ	imap.sfc.keio.ac.jp
アカウントの種類	‘IMAP’
ユーザ名	CNS のログイン名 (例:t00000tf)
パスワード	IMAP パスワード (空欄でも可)
送信用メールサーバ (SMTP)	smtp.sfc.keio.ac.jp

入力が終わったら、図 4.9 の丸で囲われたボタンを押します。ボタンを押すと SMTP サーバに関する設定に移ります。表示されたウィンドウの入力を終えたら、[OK] ボタンを押してこのウィンドウを閉じます。

表 4.4 SMTP サーバの設定

SSL(Secure Sockets Layer) を使用	チェックを入れる
認証	‘パスワード’ を選択する
ユーザ名	CNS のログイン名
パスワード	IMAP パスワード (空欄でも可)

図 4.9 の [詳細] タブをクリックします。認証方式を設定します。表 4.5 の通りに設定してください。以上で Apple Mail の設定は終わりです。入力が終わったらウィンドウ左上のボタンで閉じ、設定を保存してください。

表 4.5 アカウントの詳細設定

SSL を使用	チェックを入れる (このとき、自動的にポートが 993 に設定される)
認証	‘パスワード’ を選択する

5 CNS 上のプリンタへの印刷

この章について

CNS では 20 台以上のプリンタを利用できます。ノート PC から直接これらへ印刷することはできませんが、データの形式を変更し、それを CNS に転送することで間接的に印刷を行えます。本節では Windows と Mac OS それぞれでの操作を解説します。

5.1 Windows での印刷

初期設定として、利用したいプリンタのドライバをインストールします。ドライバはプリンタメーカーの Web サイトからダウンロードできます。

印刷時にはまず印刷する元データをプリンタが受け入れ可能な形式に変換します。CNS のプリンタは PS もしくは PRN という形式のファイルを印刷できます。Windows では PRN ファイルに変換する方が簡単なため、通常は PRN ファイルへ変換します。変換後はファイルを CNS へ転送します (p.46)。リモートログイン (p.42) し、コマンドを実行することで転送したファイルを印刷できます。

5.1.1 初期設定

CNS には 3 種類のプリンタが設置されており、それぞれ利用するドライバが異なります。表 5.1 を参照して、適切なものをダウンロードしましょう。

表 5.1 プリンタドライバ一覧

場所	機種名	ドライバの URL
特別教室	PagePro 9100	http://konicaminolta.jp/
新オープンエリア		
メディアセンター	4032 Print System J2	
カラープリンタ	DocuPrint C3540	http://download.fujixerox.co.jp/

プリンタドライバをダウンロードしたら、展開しましょう。展開したらドライバをインストールします。インストールはウィザード形式になっており、指示に従っていくだけでインストールできます。

まず [スタート] メニューから [プリンタと FAX] を選択します。無い場合は [コントロールパネル] を選び、表示されたアイコンの中から「プリンタと FAX」を選択してください。

表示された画面の左側にメニューがある場合、[プリンタのタスク] 一覧から [プリンタのインストール] を選択します。メニューが無い場合は「プリンタの追加」をクリックしましょう。プリンタの追加ウィザードが開始されます。[次へ] を押して先へ進みましょう。‘使用するプリンタの種類を指定してください’ と表示されますので、[プラグアンドプレイ対応プリンタを自動的に検索してインストールする] のチェックを外します。次に「このコンピュータに接続されているローカルプリンタ」を選択し、[次へ] を押しましょう。

‘プリンタポートの選択’が表示されます。[次のポートを使用]の中から‘FILE:(ファイルへ出力)’を選択します(図 5.1)。選択したら [次へ] を押しましょう。

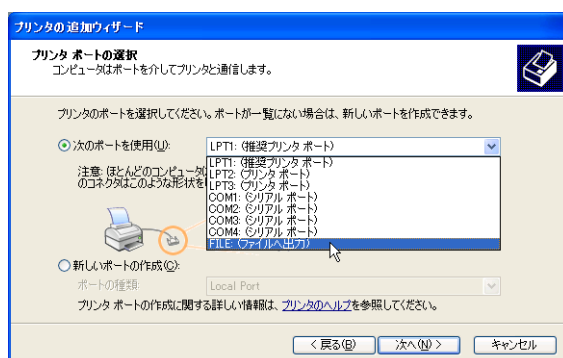


図 5.1 FILE:ポートを選択

‘プリンタソフトウェアのインストール’が表示されます。[ディスク使用] ボタンを押してください。‘フロッピーディスクからインストール’が表示されるので、[参照] ボタンを押します。ドライブを展開したフォルダのから、‘.inf’で終るファイルを探します(図 5.2)。見つけたら選択し、[開く] を押してください。選択したファイル名が表示されていることを確認して [OK] ボタンを押します。

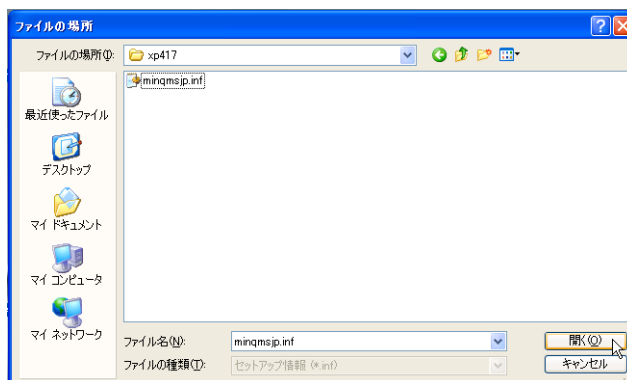


図 5.2 .inf ファイルの選択

選択した inf ファイルに定義されているプリンタが表示されます (図 5.3)。利用するプリンタに該当する機種を選択します。機種は表 5.1 を参照してください。同じ型番で複数の種類があるものに関しては、‘J2’ で終るプリンタを選択してください。

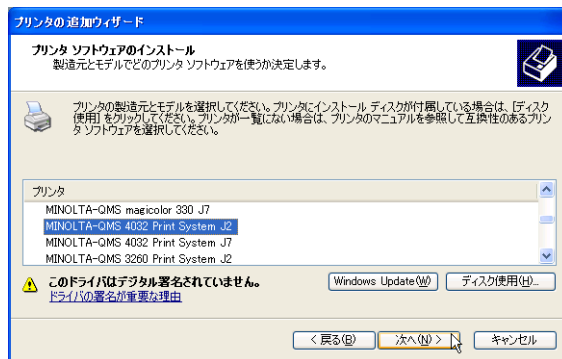


図 5.3 機種を選択

機種を選択すると、プリンタの名前を入力するよう求められます。標準のままでもかまいませんし、場所によって名前を変更することも可能です (例:メディアセンターモノクロプリンタ)。またすでに別のプリンタを設定している場合、通常使うプリンタとするかどうかを問われます。ここは「いいえ」を選択してください。

プリンタを共有するか問われます。‘このプリンタを共有しない’を選びましょう。次にテストページの印刷をするか問われます。これも‘いいえ’を選択します。最後に‘プリンタの追加ウィザードの完了’が表示されます。[完了] ボタンを押すと、プリンタのインストールが開始されます。この時警告が表示される場合がありますが、「続行」をクリックしてください。

以上で初期設定は終了です。ことなる場所に設置されているプリンタであっても、同じ機種のプリンタであれば印刷が可能です。初期設定を繰り返す必要はありません。

5.1.2 印刷の実行

CNS のプリンタで印刷する場合、個人所有 PC 上のアプリケーションのファイルを直接出力することは出来ません。一度 PRN という形式のファイルに形式を変える必要があります。初期設定 (p.56) したプリンタへ印刷することで変換できます。

初期設定したプリンタへ印刷すると‘ファイルへ出力’ダイアログ (5.4) が表示されます。半角の英数字のみを用いた名前をつけます。名前は‘.prn’で終わると良いでしょう。保存場所を指定しない場合は元データの保存場所に、PRN ファイルが作成されます。具体的な場所を指定したい場合は、ファイル名の場所に保存場所を記述しましょう。

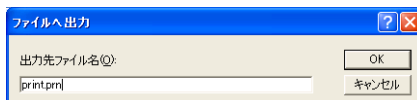


図 5.4 ファイルへ出力ダイアログ

PRN ファイルを作成したら、それを CNS へ転送します。転送方法は‘Windows でのファイル転送 (p.46)’を参照してください。

転送後はリモートログイン (p.42) します。リモートログイン先で `lpr` コマンドを実行することで、転送した PRN ファイルを印刷できます。`lpr` コマンドは `lpr -P プリンタ名 ファイル名` の形式で実行します。`nps13` に `report.prn` を印刷する場合、次のように実行します。

実行例

```
% lpr -Pnps13 report.prn
% █
```

`lpr` コマンドを実行後、プリンタが印刷を開始したかどうかを確認します。データ変換に失敗している場合など、正しく印刷が始まらない場合もあります。必ず確認するようにしましょう。確認には `lpq` コマンドを利用します。`lpq` コマンドは `lpq -P 確認するプリンタ名` の形式で実行します。`nps13` が印刷状況を確認するには次のように実行します。

実行例

```
% lpq -Pnps13
Mon Mar 6 17:41:33 2006
Starting job
Rank  Owner      Job  Files      Total Size
active t00000tf    5   report.prn 13956 bytes
1st   s00000hf    6   jokiso.prn 124808 bytes
% █
```

`active` の行にあるものが現在印刷されているデータです。多くの人がプリンタを利用している場合、印刷待ちの状態が表示されます。この例では二人がプリンタを利用していることがわかります。

5.1.3 PDF ファイル印刷時の注意

PDF ファイルを印刷する場合、次の操作を行わないと印刷に失敗することがあります。他の手順は、通常の印刷と同じです。

- (1) Adobe Reader などでも PDF ファイルを開き、印刷を実行する
- (2) 印刷ダイアログの [詳細設定] ボタンをクリックする
- (3) [画像として印刷] にチェックボックスを入れる
- (4) [OK] ボタンを押す

5.2 Mac OS での印刷

Mac OS から印刷する場合は、まずファイルを PS という形式に変更します。印刷するファイルを開き、メニューから [ファイル]→[プリント] を選びます。表示されるダイアログの [PDF] と書かれたボタンを押します。表示されるメニューの中から‘PDF を PostScript として保存’を選び

ます (図 5.5)。作成するファイルの名前を問われるので、半角英数字のみを用いて入力してください。通常は‘書類’フォルダの中に作成されますが、別の場所に作成することも可能です。名前をつける際に適切な場所を指定しましょう。[保存] ボタンを押すと PS ファイルが作成されます。

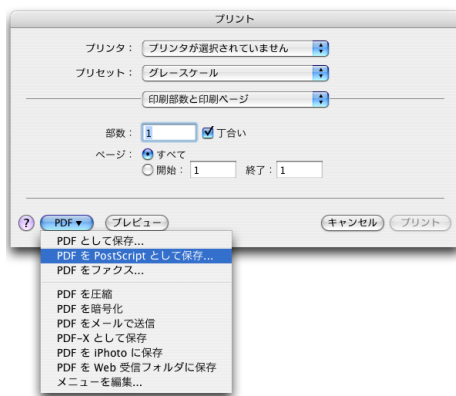


図 5.5 PS ファイルへの変換

PS ファイルを作成したら、それを CNS へ転送します (p.49)。転送には Fugu などを利用します。転送後はリモートログイン (p.45) します。リモートログイン先で `lpr` コマンドを実行することで、転送した PRN ファイルを印刷できます。`lpr` コマンドは `lpr -P プリンタ名 ファイル名` の形式で実行します。nps13 に `report.ps` を印刷する場合、次のように実行します。

実行例

```
% lpr -Pnps13 report.ps
% █
```

`lpr` コマンドを実行後、プリンタが印刷を開始したかどうかを確認します。データ変換に失敗している場合など、正しく印刷が始まらない場合もあります。必ず確認するようにしましょう。確認には `lpq` コマンドを利用します。`lpq` コマンドは `lpq -P 確認するプリンタ名` の形式で実行します。nps13 が印刷状況を確認するには次のように実行します。

実行例

```
% lpq -Pnps13
Mon Mar 6 17:41:33 2006
Starting job
Rank  Owner      Job  Files      Total Size
active t00000tf    5    report.ps  13956 bytes
1st   s00000hf    6    jokiso.prn 124808 bytes
% █
```

active の行にあるものが現在印刷されているデータです。多くの人がプリンタを利用している場合、印刷待ちの状態が表示されます。この例では二人がプリンタを利用していることがわかります。

6 セキュリティホール対策

この章について

セキュリティホールを抱えているノート PC を CNS に接続することはセキュリティの面で非常に高いリスクを負うことになります。本節ではセキュリティホールを減らすための操作を解説します。

6.1 Windows Update

WindowsUpdate にて更新プログラムをインストールする方法を説明します。Windows Update は Microsoft 社の Windows Update の Web サイトにアクセスして行います。Windows Update を行う際には、実行する前に Internet Explorer を除いたすべてのプログラムを終了してください。またインターネットに接続した状態で行ってください。

6.1.1 アップデート方法

[スタート] メニューから [すべてのプログラム] にある [Windows Update] を選択します。マイクロソフトの Web サイトにアクセスされ、図 6.1 のような画面が表示されます。また、このページは Internet Explorer から WindowsUpdate の Web サイト (<http://windowsupdate.microsoft.com/>) を開いても表示できます。

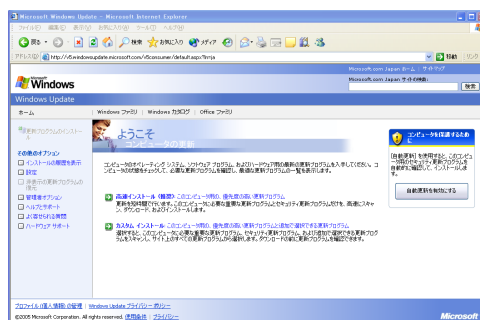


図 6.1 Windows Update の Web サイト

[高速インストール (推奨)] を選択します。‘利用可能な更新プログラムを検索しています’と表示されます。しばらくすると図 6.2 のようなページが表示されるので、[インストール] を選択します。‘更新をインストールしています’と表示されるので、インストールが終わるまでそのまましばらく待ちます。

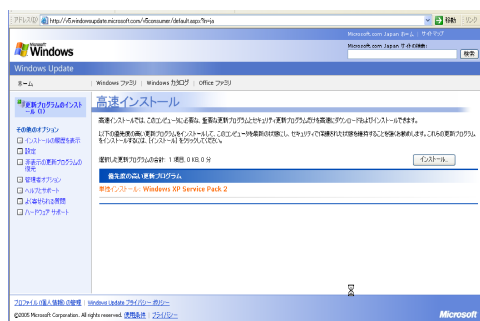


図 6.2 高速インストール

’お使いのコンピュータは正しく更新されました.’と表示されればインストールは完了です。右下の [今すぐ再起動] を選択し、コンピュータを再起動します。

6.1.2 自動更新

次に、Windows Update を自動更新に設定する方法を説明します。自動更新を設定しておく、指定された時刻にコンピュータがセキュリティ更新プログラムを自動的に確認してインストールを行います。図??の Windows Update の Web サイト (<http://windowsupdate.microsoft.com/>) を開いた際、[自動更新を有効にする] というボタン (図 6.3) が表示されている場合には自動更新が有効になっていません。自動更新を有効にしておくことを推奨します。

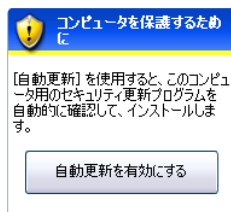


図 6.3 自動更新を有効にする

図 6.3 の [自動更新を有効にする] ボタンを押すと、[自動更新] のダイアログボックス (図 6.4) が表示されます。自動更新を行う曜日と時刻を選択し、[OK] を押します。

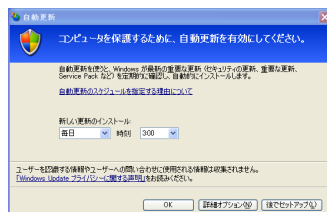


図 6.4 自動更新ダイアログボックス

コントロールパネルからも自動更新を有効にできます。[スタート] メニューから [コントロール

パネル] を選択します。コントロールパネルから [パフォーマンスとメンテナンス] を選択し、[システム] を押すと [システムのプロパティ] が表示されます。表示されたウィンドウの [自動更新] タブをクリックします。自動更新を設定する画面 (図 6.5) が表示されるので、[自動 (推奨)] をチェックし、自動更新を行う曜日と時刻を選択します。選択を終了したら [OK] を押します。

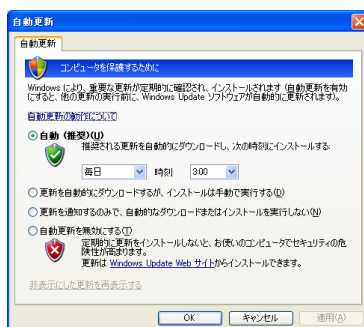


図 6.5 自動更新設定画面

6.2 Apple Security Update

Apple Security Update にて Mac OS のセキュリティに関する更新プログラムをインストールする方法を説明します。Apple Security Update を行うには、Apple 社の Web サイトから更新をダウンロードしインストールする方法と、システム環境設定のソフトウェア・アップデートを用いて Security Update をインストールする方法の 2 つがあります。どちらもインターネットに接続した状態で行ってください。

画面左上のアップルマークから [ソフトウェア・アップデート] を選択します。更新の有無が自動的に確認され、その一覧 (図 6.6) が表示されます。Security Update 以外にもソフトウェアの更新があれば表示されます。定期的に確認してください。

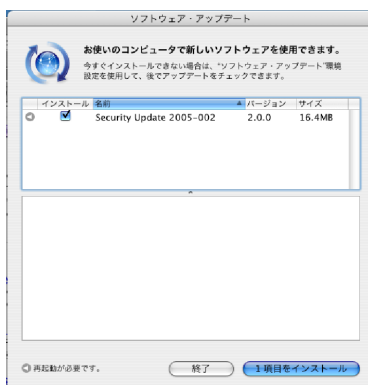


図 6.6 ソフトウェア・アップデート

[1 項目をインストール] ボタンを押すと更新が始まります。認証画面でパスワードを聞かれる場合もありますので、その時はパスワードを入力してください。使用許諾契約が表示されるので、よく読み、[同意します] を選択してください。インストールが開始されます。インストールが終わると再起動を求められるので、[再起動] を押しコンピュータを再起動します。

また Security Update は Apple 社の Web サイト (<http://www.apple.com/jp/ftp-info/>) からダウンロードできます。Web ブラウザで Apple ソフトウェア・アップデートのページを表示します。更新の新しいものが順番に並んでいます。未更新のものへのリンクをクリックすると、Security Update をダウンロードする画面が表示されます。画面中央にはダウンロード ID とファイルサイズが表示されます。ファイルサイズの表示がリンクになっているのでクリックします。更新をダウンロードできます。

付録

SFC-CNS 利用内規

CNS/ERNS 利用者各位

湘南藤沢キャンパス

湘南藤沢キャンパス キャンパスネットワークシステム利用内規

以下のとおり、湘南藤沢キャンパス—キャンパスネットワークシステム (以下 SFC-CNS という) の利用内規を定める。

- I SFC-CNS 利用者は、SFC-CNS が学術用ネットワークであることを承知しているものとする。
- II 教育・研究目的に該当しない以下のような行為には、SFC-CNS アカウントの利用承認の取り消し、または一定期間 SFC-CNS の利用を停止する場合がある。アカウントの利用承認取り消しや利用停止によって、履修単位を取得できないなどの不利益を被ることがあるので、注意すること。
 - 1 営利目的での利用
 - 2 公序良俗に反する行為
 - 3 他人のプライバシーを侵す行為
 - 4 ネットワークの正常な運用を妨害する行為
 - 5 著作権などの知的所有権を侵害する行為
 - 6 慶應義塾大学の品位を落とすような行為
 - 7 その他、法令、学内規定に違反する行為
- III ネットワークの正常な運用を妨げる機器が発見された場合、SFC-CNS との接続を遮断する場合がある。
- IV この内規は、不定期に見直されることがある。その場合は、現在の内規に上書きして運用される。
- V 湘南藤沢キャンパスは、以上を承知した者に SFC-CNS のアカウントを発行する。

以上

制定：2003 年 (平成 15 年) 9 月 3 日

施行：2003 年 (平成 15 年) 9 月 3 日

貸出ノート PC ソフトウェア一覧

分類	ソフトウェア
Access IBM	IBM ハードディスク・アクティブプロテクション・システム バッテリー省電力ウィザード
Adobe	Acrobat Distiller Adobe Acrobat
Archiver	Lhaca Lhaplus
Browser	Mozilla Firefox Internet Explorer
Cygwin	Cygwin Bash Shell
DataAnalysis	JMP R SPSS The SAS System
DVD	DeepBurner DVD Decrypter VideoLAN (VLC media player)
Editor	TeraPad xyzzzy
Graphics	GIMP IrfanView32
MailSoft	Becky!
Microsoft Office	Microsoft Office Access Microsoft Office Excel Microsoft Office InfoPath Microsoft Office Outlook Microsoft Office PowerPoint Microsoft Office Publisher
MediaPlayers	iTunes QuickTime RealPlayer SoundMAX Windows Media Player
Network	NetWaiting PuTTY TeraTermPro WinSCP
その他	CreW Typing

CNS 関係組織連絡先

ITC

場所	メディアセンター 1 階 北側 (CNS/ERNS サービス窓口)
電子メール	cns-request@sfc.keio.ac.jp
URL	http://itc.sfc.keio.ac.jp/
内線	52512
外線	0466-49-3423
CNS/ERNS	9:15~17:00
サービス窓口受付時間	土曜日・日曜日・祝日・慶應義塾の定める休日は休業

CNS コンサルタント

場所	メディアセンター 1 階 CNS コンサルタントブース
電子メール	cns-consultant@sfc.keio.ac.jp
URL	http://cnscon.sfc.keio.ac.jp/
内線	52519
外線	0466-49-3425
利用可能時間	月～金 9:20~22:30 土曜日・日曜日・祝日・慶應義塾の定める休日は休業 長期休業中については上記の URL を参照

AV コンサルタント

場所	メディアセンター 1 階 AV コンサルタントブース
電子メール	av-consultant@sfc.keio.ac.jp
URL	http://www.sfc.keio.ac.jp/mhtml/AVconsultant/

DB コンサルタント

場所	メディアセンター 2 階 データベース検索コーナー
電子メール	db-consultant@sfc.keio.ac.jp
URL	http://www.sfc.keio.ac.jp/mhtml/DBconsultant/

看護ファクトタム

場所	看護医療学部メディアセンター内カウンター
電子メール	fact-support@sfc.keio.ac.jp
URL	http://nmcfact.sfc.keio.ac.jp/
内線	55250
利用可能時間	Web サイト参照

PC@SFC

電子メール	pc@sfc.keio.ac.jp
URL	http://pc.sfc.keio.ac.jp/

SFC CNS ガイドの版權・著作権について

SFC-CNS の環境は多くのフリーソフトウェア、フリードキュメント、パブリックドメインソフトウェアの恩恵を受けています。この恩恵に少しでも応えるために、SFC CNS ガイドは次のような方針でその再利用を広く認め、社会に貢献していきます。

- 下記の再配布規定に基づく、複写、翻訳、改変、修正、引用を許諾します。
- 下記の再配布規定に基づく、印刷、配布、販売を許諾します。
- 希望者には、電子媒体で原稿を配布します。

(cns-guide-req@sfc.keio.ac.jp への電子メールで受け付けます。)

再配布規定

- 出典を明記してください。
- 本書の原稿が無料で公開されていることを明記してください。

キャンパス外無保証

本書の内容については、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス外からの問い合わせには応じていません。また、本書の補足訂正情報の、キャンパス外への積極的な公開は行っていません。

SFC CNS ガイド 2006 年度版

©1993-2006 慶應義塾大学

発 行 日 2006 年 4 月 1 日

編 集 SFC CNS ガイド編集委員会

発 行 慶應義塾湘南藤沢 ITC

〒 252-8520 神奈川県藤沢市遠藤 5322

電話 0466 (47) 5111 (代表)

電子メール cns-guide-req@sfc.keio.ac.jp

印 刷 大日本印刷株式会社

*

装丁 古川 俊太